

## 第27回神戸電鉄粟生線活性化協議会 会議録

〔日 時：平成28年4月25日（月）15：10～17：30  
場 所：三木市役所 5階 大会議室〕

### 1 開 会

（事務局）

神戸電鉄粟生線活性化協議会を開催いたします。私は三木市まちづくり部長をしております〇〇と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の出席の委員さん並びに傍聴の皆様をお願いいたします。携帯電話をお持ちの方につきましては、電源をお切りいただくか、マナーモードに設定の方をよろしくお願いいたしますと思います。

それでは、開会に当たりまして、協議会会長でございます藪本三木市長の方より、御挨拶を申し上げます。会長、よろしくお願いいたします。

（会長）

皆さん、こんにちは。では第27回の神鉄粟生線活性化協議会ということで、前回1月に開催させていただきましてから3か月が過ぎたところでございます。

前回にはいわゆるこの本協議会の任意協から法定協への移行について主に御意見を、協議をさせていただき、いろいろな御意見を賜ったところでございますが、今回におきましては、この法定協議会への移行というものを、議決を賜りたく、前回同様、御意見を賜ったことも踏まえ、また法定協に移行するに当たりましては、メンバーの拡充ということも要件の一つになってきております。そういうことも踏まえる中で、本協議会の今後の、特に方向性ととともに特に28年度、どのような形で進めていくのか、予算の御審議を賜る大変重要な協議会となっている次第でございます。

皆様方、審議に当たりまして御協力いただく中で、審議がスムーズに進みますことを祈念申し上げまして、簡単でございますが挨拶にかえさせていただきます。よろしくお願いいたします。

（事務局）

ありがとうございました。

今回の協議会から、人事異動等によりまして出席されている方が交代をされております。御紹介をいたします。

まず、兵庫県県土整備部県土企画局長 〇〇委員の後任といたしまして、同じく県土企画局長であらせられます〇〇様でございます。

(委員)

こんにちは、いつもお世話になっております。〇〇です。どうぞよろしくお願ひします。

(事務局)

神戸市住宅都市局計画部長 〇〇様の後任で、神戸市住宅都市局交通政策部長 〇〇様でございます。

(委員)

〇〇でございます。よろしくお願ひします。

(事務局)

神戸電鉄株式会社専務取締役鉄道事業本部長 〇〇委員の後任でございます、神戸電鉄株式会社経営企画部長兼鉄道事業本部企画部長 〇〇様でございます。

(委員)

〇〇でございます。よろしくお願ひします。

(事務局)

続きまして、兵庫県立三木東高等学校教諭 〇〇委員の後任で、〇〇委員様でございます。

(委員)

代理で参りました、〇〇と申します。よろしくお願ひします。

(事務局)

続きまして、オブザーバーとして参加をさせていただいております、まず国土交通省近畿運輸局鉄道部計画課長 〇〇様の後任で、〇〇様でございます。

(委員)

〇〇でございます。どうぞよろしくお願ひします。

(事務局)

同じく、国土交通省神戸運輸監理部兵庫陸運部首席運輸企画専門官 〇〇様でございます。

(委員)

〇〇の代理で参りました〇〇と申します。よろしく申し上げます。

(事務局)

続きまして、兵庫県北播磨県民局県民交流室長 〇〇様の御後任で、〇〇様でございます。

(委員)

〇〇と申します。よろしくお願ひいたします。

(事務局)

神戸市西区まちづくり推進部まちづくり課長 〇〇オブザーバーの後任といたしまして、〇〇様でございます。本日は御欠席をされております。

それでは、本日の出欠を御報告いたします。本日につきましては、〇〇委員さんが御欠席と聞いております。また、オブザーバーの、先ほど申しました〇〇様につきましても、御欠席と伺っております。

なお、本協議会につきましては、委員17名中、本日の出席委員は16名、過半数以上の出席をいただいておりますので、協議会規約第8条第4項の規定により、本会議は成立していることを御報告申し上げます。

それでは、ここからの会議の進行を会長の藪本三木市長にお願いいたします。

(会長)

はい、分かりました。進行は、申し訳ございません、座ったままやらせていただきたいと思ひます。

今日の内容につきましては、議事進行としてお手元にもお配りしておりますが、5つの議案、それから報告事項として3つの報告事項、それからその他として1件、合計で9件の議事報告等が、事項があるわけでございます。次第にのっとして、沿って進めさせていただきたいと思ひます。

**(1) 第25回神戸電鉄粟生線活性化協議会議事録の修正**

**(2) 第26回神戸電鉄粟生線活性化協議会議事録の確認**

(会長)

まずは、議事に入る前でございますが、前々回の議事録の修正、それから前回の議事録の確認ということでございますが、これについて、これは事務局説明されるんですか。

そしたら事務局の方、お願いしたいと思ひます。

(事務局)

失礼します。交通政策課長の〇〇と申します。以降、座って失礼いたします。

第25回協議会の議事録の修正ということですが、お手元のページ番号に基づきまして、右下1-5と打っているページでございます。修正箇所につきましては、アンダーラインを引いております。一部、事務局の方でテープ起こしが不足していたところを委員の皆様を確認いただきまして、修正を施したものでございます。

それから、ページをめくっていただきまして、前回第26回協議会の議事録についてでございます。前回1月の協議会の議事録を起こしたものでございます。本日は、確認の時間の関係上省略をさせていただきますが、後日御確認いただきまして、修正等がございましたら事務局の方へ連絡をお願いしたいと思っております。

事務局からは以上でございます。

(事務局)

それと、今回こういう形を取らせていただいておりますが、次回からにつきましては、議事録、いわゆる発言内容につきましては、全て記載の上、ホームページに上げさせていただきます。もし、修正等がございましたら、その次の協議会の中でこういう形で修正をしたいということをお発言いただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

(会長)

先ほどの議事録の関係で、事務局の〇〇の方が申しておりますが、前回も委員の皆様、委員の方から、議事録の更新というんでしょうか、アップというのが非常にアップ・トゥ・デートではなくて、トゥー・レイト、遅過ぎるのではないのかと、こういう御意見を賜ったところでございます。

本来、非公開ではなくて、この会議は公開という形でやらせていただいておりますので、議事録を、当然修正とか確認というのはあるわけですが、できるだけ早い時間帯、早い期間の間に、ここに実際に傍聴にお越しにならない沿線住民の方々にも早くお知らせするというのが、我々の会議の趣旨だと思っておりますので、次回以降からは本来の公開の会議の議事録の公開にのっとりたような形で、早くさせていただきますと思ひますので、ただ修正とかありましたときには、またお知らせいただきたいと思ひます。

(委員)

議長から、議長というか事務局からの御説明はごもっともで賛同しておりますけれども、全体の内容で、私もちょっと事務局に入っていて、責任の一端は私にもあるんですけれども、言葉足らずでございまして、その補足、それとちょっと確認をさせていただきたいのが2件ほどございまして、よろしいでしょうか。

(会長)

どうぞ、やってください。

(委員)

一つは、今日の議案とも絡みますけれども、前回の協議会では利用促進部会をこの協議会の下に設けるということで、委員の皆様の見解をお伺いしたかと思えます。その趣旨について、事務局から一定の御説明がありましたけれども、当社の思いというところについては御説明いただけなかったもので、ちょっと補足をさせていただきたいと思えます。

本協議会は、神戸電鉄粟生線を未来に向けて維持、存続させていこうという強い思いのもと、私ども、行政、そして沿線住民の方が一緒になって立ち上げたものでございます。しかしながら、今回、法定協議会化するに、移行するに当たりまして、その従来からの趣旨に加え、地域の交通のあるべき姿を、根本から、鉄道ありきでなく、他の手段ということも考えた上で、その上で合意をして粟生線の維持存続を考えていこうという要素が入りました。そういうことからしますと、当初は従来のように、例えば後ほどあると思うんですけども、神姫バスさんが入られる協議会の中で、当社を特別扱いするっていうことはちょっとなじまないんじゃないかというところで、一方、その面では引いた形で参加させていただくのが適切ではないかと思ったしだいでありまして。

従前、役付役員の〇〇が出てたものを、今回役員ではない私が参加させていただいているというのもそういう趣旨であり、これが皆様にとって後退だととられるのは、当社としては非常に不本意というところがございまして、これまでの利用促進に関わる部分については、別途部会を立ち上げて、その事務局は三木市さんではなく、当社が担うことで、これまでどおり皆さんとともにやっていく意思を示したいということで、御提案させていただいたものであります。後ほど議案にも掲げますので、その趣旨を1つ補足させていただきたいというのが1点。

もう1点でございますけれども、前回、利活用方策の検討委員会からの報告ということで、いろいろ御説明がございました。あの中で、粟生線の実質上の年間の輸送人数が862万人ということで、当社が公開しているものより随分多い、当該年度でいうと190万人ほど多いという御報告が

ございました。これはビッグデータから実数字を算定したものでございますが、この趣旨やこの数字が持つ意味ということについて、言及がなかったことから、結構ちまたで話題となりまして、700万人を目標に乗って残そうということで頑張っているのに、もう既にその目標を大きく上回る実態があつて、感情を逆なでするのではないのかというような御指摘が、そもそも利用人数をごまかして、収支も含めてごまかしてるんじゃないかというような御指摘もいただいたところでございます。

事務局からいろいろ御説明があつて、別に当社をごまかしていたわけでもなく、収支も別にこれで変わるものではないということは、ここにおられた方は御理解いただけてるのかなと思うんですが、ちょっとそういったことがありましたので、再度数字の意味等について確認をさせていただきたいというしだいでございます。

一つは、前回のこの862万のビッグデータということで、回収札機のデータを基に分析したものでございます。これは、当社線においては当社は分かるんですけども……。

(会長)

簡潔にお願いできないでしょうか。今、議事録の確認のところですので。

(委員)

失礼しました。要は、862万人の意味についてですが、これはある時点での実数を把握したものであつて、今後の数字を測定することは不可能でございます。

1点目の確認ですが、今後の協議会において数字、予想人数を話し合うときは従来から当社が算定してきている方法、これを踏襲して話をしていくことを1点確認させていただきたいということと、大体ビッグデータは862万人だけが発表されておりますけれども、本来は輸送の実態を捉えて、それに対してどう我々は対処すべきか、これを測定するためにビッグデータの分析をしたものであります。要点で言いますと、それをもとに、例えばこれがバスに置き換わったとしたら、どういったことが生じるのか、そのシミュレーションのもとになるものでございます。それができてないので、前回は発表に至っておりませんが、そういうことで活用していくものだという認識、この2点を確認させていただきたいと思います。

以上、議事録の確認のときに補足とちょっと確認ということで、いろいろ混乱させていますけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(会長)

分かりました。まず初め、1点目の方の役員の関係で、今回の委員の関

係で、〇〇さんに代わられたということにつきましては、この、ここにいらっしゃるどなたも御社の後退というようには誰も捉えておりませんので、その辺はよろしくお願ひしたいと思っております。

それから、2点目の方で、輸送ビッグデータを用いた数字ということが前回の会議で説明されたわけですが、それについて今後の活用というんでしょうか、今後それをどのように使っていくのか、そういうことについての設問でいただいておりますが、申し訳ございません、この段階につきまして、今日の議事録の内容の修正とか、確認、議事録が不正確であるかどうかの確認をさせていただいているところでございます。

後の方との議題ともかかわってきますので、もし〇〇さんがよろしければ、そちらのほうで私、会長としてきちんと先ほどの件についても議題に、議題といいましょうか、議論の一つにさせていただきたいと思っておりますので、この場ではちょっと回答は割愛させていただきたいなというふうに思っております。私自身が受けた印象は、その後の新聞報道等でもきちんと説明者の内容は、意は伝わっていたのではないのか、きちんとした取り方、取り方の内容の中で、数字が違ってきているということ、私どもは少なくとも認識しておりますし、報道のあり方もそのように誠実な書き方をされておられましたので、いろいろ言われる方はおっしゃるんでしょうけども、御社としてもいろいろお考えもおありでしょうが、果たしてそういうふうには、我々、少なくとも委員は誰も受けとめてはおりませんので、そのことを御理解賜る中で、今後どのようにこのビッグデータというものを使っていくのか使っていないのかを踏まえて、それを後の議題との関連事項で議事の一つにさせていただきたい、このように思っております。

(委員)

問題点を指摘させていただくことに意味がございましたし、私もあのデータをどう活用していくか、これが重要だと思っておりますので、議長の整理で結構かと思えます。

(会長)

それでは・・・。

(委員)

この議事録の確認ですが、これは前回の、第25回の議事録についてでございますね。

(会長)

確認は前回ですね、26回の。

(委員)

26回。

(会長)

前々回は修正が一部あったという。よろしいでしょうか。

(委員)

それと、今後の議事録はホームページにアップされるようになっておりましたが、それは例えば質問についても、委員という形で発表されるのでしょうか。それとも「〇〇委員」という形で発表されるのでしょうか。

(事務局)

失礼します。こちらについては、委員というような形で公表、アップをさせていただきたいと考えております。

(委員)

分かりました。

(会長)

公開における議事録のアップ、議事録のやり方というものを、本来のあり方に今年度から戻させていただくという形で、よろしくお願ひしたいと思ひます。

## 2 議 事

### 議事 1号 協議会規約の変更について

(会長)

それでは、議事の方に入らせていただき、今から〇〇様の方からの件もその中で議論をさせていただきたいと思ひます。

まず、議事の1号議案という形で、協議会規約の変更について、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(事務局)

失礼します。お手元資料の3-1を御覧いただきたいと思ひます。協議会規約の変更についてということで、前回、前回の協議事項の中でも触れさせていただきまして、今この協議会を国の改正法の定めます法定協議会の方へ移行するに当たって、必要となる内容について規約の変更をお願ひ



するものです。

まず、2つございます。1つ目につきましては、アというところ、協議会の設置目的、それと業務内容につきまして、地域公共交通網の形成計画の策定についての協議を行うということを追加するものでございます。

資料をめくっていただきまして、3-2を御覧いただきたいと思います。協議会規約の新旧対照表というところでございます。左側が現行の規約、そして右側が改正しようとする内容でございますが、第1条のところでは、(1)、(2)ということで、特にこの(2)形成計画の策定に関する協議等を行う旨を追加するものでございます。

それから、第3条の方に移りますが、こちらにつきましても、1から2番までありますところの、特に4、5、6という項目、形成計画の策定あるいは実施に係る連絡調整、そして形成計画に位置付けられた事業の実施を行うということを追記、追加するものでございます。

それから、再度3-1の方に資料を戻っていただきまして、規約の変更の2点目といたしまして、イというところ。前回もお話をさせていただきましたが、新たな委員の追加ということで、下の表にございますとおり、関係する交通事業者、神姫バスさんですけれども、そちら。それから、関係市の道路管理者、そして関係市の公安委員会を新たな委員の皆様として追加をお願いしたいと考えています。

資料をめくっていただきまして、3-6というページを御覧いただきたいと思います。こちらに、規約の変更を行った後の委員の全体像ということでお示ししております。右側の備考欄に、追加と記載がある委員の皆様につきましては、このたび改正法の定める要件を満たすために、8名の委員の皆様に参加をお願いしたいということでございます。全体としましては、委員数が25名、オブザーバーが6名、合わせて31名の組織体ということの変更になってまいります。

議事の1号につきましては、以上でございます。

(会長)

先ほど、議事の1号について規約の変更という形の中で、目的の部分、それとまた委員様の追加について、事務局から説明させていただきましたが、これについては法定協議会への移行という形の中で、必要条件を満たしていくという形で提案させていただいているものでございますが、特に異議はございませんでしょうか。

(委員)

神姫バスさんが入られるのは、まだ時期尚早と思います。

(会長)

理由をお述べいただきたいと思います。

(委員)

やはり、先ほどちょっとお話がございましたが、神戸電鉄の活性化ということで始まっておるわけですから、本質的にこのバスと電車がこの時点ではうまくリンクしないんじゃないかなと思います。

それと、神姫バスさん、去年からいろいろと問題も生じておりますし、もう少し時間を置かれた方がいいんじゃないかなと私は思います。

それと、神戸電鉄さんは私企業でございますが、阪急阪神のホールディングスの傘下にあるとはいえ、本来神姫バスさんと神戸電鉄というのは相對する事業者ですから、これは簡単にここへ入れられるというのはいかかなものかなと思います。もう少し、時間と様子を確認してからの方がいいんじゃないかなと思います。断固反対します。

(会長)

議事録、きっちり残りますので、あえて会長としてお返ししたいんですけど、神姫バスさん何か問題あったんでしょうか。

(委員)

いやいや、そのような世間のうわさもやはり大事だと思ひまして。

(会長)

委員としての御発言でございますので・・・。

(委員)

名前入れてもらって結構ですよ。

(会長)

いやいや、そういう意味じゃなくて、うわさとかその辺だけで会社を傷つけるような御発言は遠慮いただきたいと思ひます。

(委員)

新聞にも出たじゃないですか。どっかの部長との宴会のあれもキャンセルになったとか何とかってありましたから、これはもう少し冷めるまで置いときましょうよ。決して入れるべきじゃないと思ひます。私は断固反対します。

(会長)

御意見としてお伺いしておきます。

(委員)

はい、結構です。

(会長)

はい、事務局の方、どうですか。

(事務局)

このたび、委員の大幅な追加をさせていただいております。これにつきましては、形成計画、いわゆる網、線ではなく広がりのある、いわゆる網という形でございます。ですので、例えば神戸電鉄とバスの連携をどうしていくのか、そういった形でも当然議論の対象となってきますので、このたび〇〇委員の方がおっしゃっているように、神姫バスを外すということは、いわゆる法の趣旨、法が考えている、要するに交通網計画の策定ということの趣旨には沿いませんので、それにつきましては事務局としてはこのままいかせていただきたいと思いますと考えております。

(委員)

それ、決とらないわけですか。事務局としてはいかせていただきたいと思いますという、それはそれで結構なんですけどもね……。

(会長)

いや、決はとります。

(委員)

……であれば、今までの議事録を全部読み返しましても、議長そのものが北条鉄道云々というのを24回の議事録か何かにありましたけども、例えば北条鉄道、あるいはJRの西日本も入っていただくというのは、バランスよく考えられることであって、ここへ神姫バスだけが出てくるってなると、もうおかしい。片手落ちなんです。

(事務局)

そうなりますと、神戸市域、それから小野市域といろいろ3市にまたがっております。例えば、神戸市さんの方は、神戸市の方は神戸市の方で別個、網形成計画を立てられてる。小野市は小野市で別個、網形成計画は立てられてると、こういう形ですので、その議論はもう既になされている

ということで、このたびは神戸電鉄を中心とした、こういった交通網計画を策定していくのか、そういった部分の議論となりますので、ですので関係するバス事業者につきましては神姫バス、特に神姫バスにつきましては、神戸電鉄と並行したような形でのバスの運行もされてます。じゃあその辺はどうなる、どうするのかという、そういう議論も当然必要になってきますので、今回、〇〇委員が提案された部分につきましては、事務局側といたしましては、失礼な言い方ですが承認しかねるということでございます。

(委員)

事務局側として承認しかねるというのは、本当に失礼な言い方だと私は思うんですが、じゃあ小野市の形成委員会で決議されたものと、神戸市の形成委員会でされてることは常に把握されてるわけですか、三木市では。

(会長)

委員さんにお伝えします。発言、今日は会長から発言してくださいと言いますので、それからお願いしたいと思います。

(委員)

すみません。

(会長)

〇〇委員、どうぞ、先ほどの。

(委員)

いやいや、そうしましたら、今、〇〇さん、おっしゃいましたけども、小野市の形成委員会のいろいろと審議されてるもの協議されてること、神戸市が審議されてること協議されてることは、常におたくの方では把握されてるわけですか。

(事務局)

おたくというよりも、事務局は、一応代表は三木市が預かっておりますが、当然神戸市、小野市、それから兵庫県も含めまして、事務局機能を持っておりますので、把握できております。

(委員)

神戸市、小野市には神姫バスは入ってないわけですね。すみません、部長、神戸市、小野市については神姫バスは入ってないわけですね。

(事務局)

神姫バスが入ってないというのはどういうことですか。

(委員)

その委員会の中に。形成委員会の中に。

(委員)

たまたま私、神戸市の形成計画の協議会も入ってますが、あちらもバス事業者さん、神姫バスさん含め入っておられます。あちらはタクシーも入ってるんですけども、そのエリアでですね、先ほど法の趣旨を御説明ありましたけど、本質的に公共交通を担っている事業者さん、単独ではなくて、議論するエリアの将来像、その将来像を付与する中で必要な公共交通事業者が入るとするのは、これは法の趣旨ですね。単一事業者ということはずあり得ない。どこまで入れるのかというのは、たくさんの事業者さん、これも関係する沿線需要のですね、タクシー事業者さんもありますし、福祉有償をやっている事業者さんもありますので、そこまで全て入れるということを法律的には多分求めてないとは思いますが、そのあたり、議論の骨格を立てるときにウェイト、比重の高い事業者は入るとするのは法の趣旨だと思いますので、そちらに近畿運輸局の方がおられますのでまずはフォローしていただければいいんですけども、この神戸電鉄沿線将来像の公共交通を議論するときに、神姫バスさんが入らずに公共交通事業者なりの議論を進めるというわけにはなかなかいかないと思いますので、〇〇自身は事務局提案のようにね、入れて議論する形態を取るというふうに考えます。

(会長)

ちょっと待ってください。そしたら近畿運輸局さんの方から、この件につきましてちょっと御説明、何か御意見がございましたらお願いします。

(オブザーバー)

〇〇様がおっしゃったとおりですけど、まさに先ほど、〇〇委員おっしゃったように、例えばJRさんを入れるかどうかという話もあるかも分かりませんが、それはどの程度、今回、粟生線周辺ということですので、その公共交通のネットワークの中に影響するかということが論点やと思いますけど、それは正に今この議論の場で、この協議会の場でどこまで入れるんだということも含めて、議論いただくところかなというふうに思っております。

(委員)

それは入らないということですか。

(オブザーバー)

入る入らないかっていうのはちょっとこの中で御議論いただくということですし、基本的には自治体さんが協議会を回すということですので、その中でお話、確かにタクシーとかそういうものもありますので、どこまで含めるかというのは皆さんの中で御議論いただくところかなという形では思っております。

(会長)

重ねてお問い合わせして申しわけないですが、先ほど〇〇様、おっしゃってましたように、単一の事業体だけが入った中での網というのは、これは議論するという意味ですけど、本来あまり国としてもこれは想定されていないんじゃないでしょうか。その点だけお答えください。

(オブザーバー)

単一というのは、神戸電鉄だけということですか。そうですね、それは神戸電鉄だけであるとは思ってません。それ以外のバス事業者についても、入っていただく必要はあるというふうに思います。

(委員)

最後、もう一度だけよろしいですか。

(会長)

いや、ほかの方の御意見も聞きたいので、後でお渡しさせていただきます。この点につきまして、ほかの方、ないでしょうか。なければ〇〇さん、お願いします。

(委員)

神戸電鉄のことを中心に話をしてるんですから、神戸電鉄の粟生線っていうのは決して緑が丘から大村までのみが神戸電鉄の粟生線じゃないはずなんです。ですから、単一ということではなくて、例えば今のビッグデータもそうですけども、今、P A S M Oとかいろんな、I C O C Aですか、出てくると、それを超えての乗降客っていうのは出てくるわけなんですから、であれば神姫バスさん、そら「ノー」は私の意見ですけども、神姫バスさんというのが出てくるのであれば、これは必ず北条鉄道もJ R西日本も少なくとも、入ってきてしかるべきだと思いますし、従前の会長の、議

長の議事録読んでましても、北条鉄道云々というのが全部出てきますので、どうもその辺が奇妙な感じがしてしょうがないんですが。

(会長)

私に対するお問合せですので、私の方からお答えします。何も今入れないとかいうことは一切言うておりません。順次、こういう形で考えていったらどうなのか、そういうような中で一番、今、一つの事業主さんだけということではなくてというならば、タクシー業者何か入れるかどうかというのはまた別にありますけれども、北条鉄道云々の前に、まずは神姫バスさんではないのかと、このように考えており、事務局の考え方は、私は最終的には議決をとらせていただきたいと思います。

(委員)

分かりました。私は反対します。

(会長)

ほかの方、よろしいでしょうか。

それでは、議決を取らせていただきたいと思います。第1号議案、協議会規約の変更について、事務局提案どおりで反対の方のみ起立をしていただきたい、挙手……。

(委員)

どっちですか。

(会長)

起立していただいて。

(反対者起立)

(会長)

はい、ありがとうございます。反対少数という形でございますので、議案1号につきましては、提案どおり可決されました。

次の、引き続きまして議案2号、仮称でございますが、形成計画素案検討部会、これの設置について……。

(事務局)

すみません、議長。ここで新たな委員の追加になりますので、ちょっと着座していただくために、御紹介させていただきます。

(会長)

申し訳ございません。

(事務局)

それでは、第1号議案について御承認をいただきましたので、新たな委員の皆様を御紹介したいと思います。

まず、神姫バス株式会社バス事業部計画課地域公共交通担当課長の〇〇様でございます。

続きまして、兵庫県北播磨県民局加東土木事務所長 〇〇様でございます。本日は代理で〇〇様の方がお越しいただいております。

続きまして、神戸市建設局道路部計画課長 〇〇様でございます。本日は御欠席と聞いております。

続きまして、三木市まちづくり部道路河川課長 〇〇様でございます。

(委員)

〇〇です。よろしくお願いいたします。

(事務局)

続きまして、小野市地域振興部道路河川課長 〇〇様でございます。

(委員)

〇〇と申します。よろしくお願いいたします。

(事務局)

兵庫県神戸西警察署交通第1課長 〇〇様でございます。

(委員)

〇〇といいます。よろしくお願いいたします。

(事務局)

続きまして、兵庫県三木警察署交通課長 〇〇様でございますが、本日は御欠席と賜っております。

続きまして、兵庫県小野警察署交通課長 〇〇様でございます。

(委員)

〇〇でございます。どうかよろしくお願いいたします。



(事務局)

以上でございます。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。  
それでは会長、お願ひいたします。

## 議事 2 号 「(仮) 形成計画素案検討部会」の設置について

(事務局)

失礼いたします。それでは、お手元資料の右下、4-1 と書かれたページをお開けいただきたくと思います。議事の 2 号といたしまして、「(仮) 形成計画素案検討部会の設置について」でございます。部会の設置につきましては、前回の協議事項ということで御協議をいただきました。今後、形成計画を策定するに当たりまして、必要な協議をこの協議会で行っていただくに当たって、形成計画の実務的な部分につきましては、より綿密に協議を行っていただけるように、機動性を持たせた取組体制が必要ということで、協議会規約の第 10 条、必要に応じて協議会に部会を置くことができることになっておりますので、この際、協議会に(仮) 形成計画素案検討部会を設置させていただきたいということでございます。

下の組織図の案のところにも書いてございますが、栗生線活性化協議会、この協議会の下に、形成計画の素案検討部会、いわゆる計画のたたき台をつくる部会を設けさせていただき、本協議会にそのたたき台を上げて報告をさせていただき、させていただき、協議会の意見を聴かせていただきたいというふうに考えているところでございます。

4-1 の下側の、注というところで、注釈を付けておりますが、前回、同じくこの協議会の部会ということで提案をしてございました、仮称の利用促進部会につきましては、当日、前回の委員の皆様から、とりわけ市民委員の皆様から、利用促進部会が栗生線の利用促進の実動部隊ということになってしまえば、活性化協議会はそれを聴くだけの場になってしまうのではないかといった御意見、あるいは住民はどの部会に参画していけばいいのかといったような御意見を賜ったところでございます。事務局といたしましては、そういった意見を考慮させていただきまして、利用促進部会については設置をしないということで考えております。

資料をめくっていただきまして、4-2、4-3 と続きますが、素案検討部会の概要につきましては、簡単にですが説明をいたしたいと思ひます。1 の設置目的につきましては、先ほど申し上げた形成計画の、いわゆるたたき台を策定するための部会として設けたいと考えています。

2 の部会員、それとオブザーバーでございますが、基本的には計画を策定しようとする地方公共団体につきましては、課長クラスの実務担当者レベルのメンバーを想定しております。それから、関係する交通事業者とい

たしましては、神鉄、そして神姫バスがそれぞれ選任するものということで上げております。そして、学識経験者といったしましては、委員でもあります〇〇様に参画をいただき、さまざまなアドバイスを受けたいというふうに考えているところです。オブザーバーといったしましては、国土交通省近畿運輸局からどなたか1名を御参画をお願いしているところでございます。

なお、この部会の事務局といったしましては、三木市が担わせていただくところでございます。

3の設置時期についてでございます。こちらについては、本年の6月の立ち上げを予定しております。前回、報告をさせていただきましたが、今現在、国の補助金をいただくべく、手を挙げているという状況でございます。こちらの正式な国からの交付決定が本年5月の下旬から6月の頭ぐらいに行われる予定です。交付決定前に事業を開始した場合、いわゆる補助の対象外というようなことにもなってまいりますので、正式な交付決定が下りてからの速やかな部会の立ち上げということで考えております。

資料の4-3をお願いしたいと思っております。部会で取り組みます主な検討内容といったしまして、大きく5点を書かせていただいております。

1つ目としましては、現在の連携計画、28年度で満了いたしますが、まずはこの計画の効果などを確認する必要があるということです。

2つ目としましては、沿線の公共交通の現状の整理。

3つ目としましては、さまざまな条件のもとにおける沿線の公共交通の将来の予測分析などが必要と考えております。

4つ目としまして、そうした予測分析などをベースとしまして、沿線地域のいわゆる将来の姿の検討ということを考えています。

そして5つ目としまして、形成計画の素案の策定ということでございます。

5番目、下にスケジュールを書かせていただいております。1から5まで、それぞれ6月部会の立ち上げから速やかに作業を開始させていただきまして、素案の策定につきましては年内を目途につくる必要があるのではないかと考えています。そして、直後の委員会にその成果を上げていき、協議会から意見をいただく中で、12月から2月、3月ぐらいにはその素案を最終的に調整する時期ということで、余裕を持って取り組んでいきたいと考えております。そうすることで、3月の計画の策定ということにつなげていく予定としているところです。

事務局からの説明は以上でございます。

(会長)

ありがとうございました。第2号議案につきましては、前回1月以後の

部会案という形で、2つの部会を提案、事務局がしておったわけでございます。このたびは形成計画素案検討部会の1部会のみとなっておりますわけですが、この辺も踏まえてどうぞ御協議いただければと思っています。

(委員)

4-3ページですね、スケジュールについて確認させていただきたいと思います。このスケジュールにつきましては、表の1ページの素案検討部会のスケジュールかと思いますが、その検討部会はあくまでも素案の検討を行う場という理解でございまして、最終的に計画策定はその上位部会、上位協議会になる活性化協議会で最終確認を、それから、活性化協議会の活動の方針については戦略会議、仮称でございまして、方針決定があるということで、3つの関係がございまして、私の意見としましては、計画策定は活性化協議会においてなされるものというふうに理解しております。つきましては、この検討部会のスケジュールだけではなく、協議会並びに戦略会議のスケジュールを併せて表示される方が分かりやすいかと思いますが、いかがでしょうか。

(会長)

ありがとうございます。まず、事務局から、答えられる範囲で結構ですが。

(事務局)

失礼します。本来ですと、この部会のスケジュール、そしてこの協議会のスケジュールに加えて、戦略会議などの予定も立てられたらよかったですけれども、現時点におきまして、戦略会議……。

(会長)

戦略会議じゃない、その前のところ。2つ御質問された。戦略会議は私の方から答えます。

(事務局)

失礼します。まずスケジュールについては、協議会、今年度、7月、今日と、7月、あと11月、3月というようなことで、年度4回程度開催を予定しております。ただ、この前ですね、12月以降に最終的に12月以降、高めていく段階で臨時の協議会というのを開催してということで、あえて協議会のスケジュールについてはここに組み込んでおりません。

それともう一点ですね……。

(会長)

今のをもう少し補足してください。今、神戸市さんの方からお問合せあるのは、2点ございました。一つは計画策定というのは活性化協議会で本来行われるべきものであると。部会のスケジュールはあるんだけど、それと協議会のスケジュールはどうリンクしていくものですか、そちらについては今・・・。

(事務局)

わかりました。すみません。失礼しました。まず、6月に一応立ち上げということで、その段階において7月ごろに第1回目の協議会を、次回協議会の開催を考えております。あと、その議論が進む中で、例えば11月ないし12月には、もう一度協議会を開催するというので、最終的にここでスケジュールを書いておりますが、年度内に素案の方を策定することにしております。その素案を策定いたしまして、3月までの間にもう一度、あるいは場合によっては複数回の協議会を開催をする中、させていただく中で、最終計画確定をさせていただきたいと考えております。

それともう一点です。あくまで計画につきましては、計画の策定主体が市となっておりますので、協議会につきましては、皆さんの十分な御意見を聴く中で、最終的に計画主体である神戸、三木、小野、この3市が確定をするということでございます。そういう段取りで今考えているところでございます。

(会長)

もう一点、お問合せございます戦略会議の方は、事務局もさることながら、これは私の方からお答えさせていただきたいと思っております。

本来ならば、この場で戦略会議の今後の、いつ立ち上げてどのように、この本計画とリンク、リンケージを張っていくのか、これが御説明できる分に、一番こしたことはないわけですが、今現在、戦略会議の立ち上げにつきましては、その前の段階といたしまして、現在既にその神戸電鉄粟生線の利活用方策検討委員会、あるいは粟生線の支援効果検証委員会という既設の委員会がございまして、それぞれ事務方レベルでの、ある意味勉強会的なものの位置付けを持っておるわけですが、私ども首長を主体とした戦略会議というものを提唱させていただいておったわけですが、今現在、いろいろ調整させていただく中におきまして、今の時点におきましては、既設の事務方での勉強会的な位置付けの委員会がございまして、そういった中で、最終的に粟生線そのものの将来像も合わせ、それもさることながら、併せて今年度末でもって支援が終了するフレーム

がございます、支援フレームがありますが、そういったものについて今後どのようにしていくのか、していなくてもいいのか、そういったことを、そちらの方の既設の勉強会的な位置付けをしているところで、事務的に一旦済まして、もんでいただいた中で、それを踏まえての今後の発展という形で、今現在、考えておるところでございます。したがって、そういった勉強会での結果というものを、こちらの方の活性、この部会の方のスケジュールのところとも、ある程度リンクを張っていく中で、実のあるものにさせていただきたい。また、その進捗をみていく中で、戦略会議についてどのようなタイミングでどのように立ち上げていくのか、そうしたものについては現時点ではお時間をいただきたいというのが、今の状況でございます。

これにつきまして、何か御質問等、御意見等ございましたらお述べいただきたいと思っております。

はい、どうぞ、〇〇委員。

(委員)

〇〇さんにお聞きしたいんですが、この部会員及びオブザーバーの、オブザーバーの案が出ておりますが、神戸電鉄に関わりますこと、あるいは神姫バスさんも含めまして、小野、あるいは三木、神戸西区のまちの経済にとっても非常に大切な部分でございますので、私ども商工会議所というのは、まちづくりあるいは地域の経済ということの主たるテーマとして活動しておりますので、ぜひこの部会員、もしくはオブザーバーの中に小野さん、三木、あるいはそれぞれどうおっしゃるか分かりませんが、神戸市さんの商工会議所を入れていただくというわけにはいかんのでしょうか。

(会長)

事務局、いかがですか、今の〇〇委員さんの・・・。

(事務局)

今の部会構成につきましては、一つそういう御提案もあろうかと思えます。ただ、もう一からの多分、議論となってまいりますので、その部分については十分その協議、活性化協議会という場で御意見をいただく場がございますので、その場でやらせていただきたい。不定期的にこの会議というのは多分開く必要がありまして、かなりな回数もやる必要があると我々は考えております。実際、連携計画を策定する場合におきましても、1週間に1回、そんなペースで協議会を持ったこともございますので、そういった頻度で皆様の御参加がいただけるかどうかというのが、ちょっと甚だ疑問な部分もございますので、その辺の議論は現在提案をさせていただ

ている委員ですね、あるいはその代理、あるいはその課長クラスといった実務者担当、実務担当レベルで議論をする中で、協議会にはしっかりと報告をさせていただき、御意見をいただくということではいかがでしょうか。

(委員)

商工会議所は入らないとかそういうことじゃなくて、非常に密に協議をしなきゃいけないので、時間的に気の毒やから外しましたというふうになっておりましたのですが、でありましたら、私どもはその時間というのは惜しみません。神戸電鉄というのは、三木にとりましても小野にとりましてももちろん、神戸市にとりましても経済のための大動脈でございますので、ここは経済界のまとめ役でございます商工会議所を外されるというのは、ちょっとつらい部分がございますのですけど。

(委員)

ありがとうございます。はい、どうぞ。

(委員)

今のに関連してですね、利用促進部会、もともと提案させていただいた趣旨とその後の整理にも絡んでくるので、一つ御提案なんですけど、利用促進部会、私どもも今回設置しない方向で同意をさせていただきました。その趣旨は、部会は設置しないんだけど、ワーキンググループというものを立ち上げて、随時、御意見を聴く場を設けて議論していこうということでございます。同様な形が取ればな、というように思っておりますけれども、いかがでしょうか。形成計画というのは、非常に何ていうか、実務的というか、専門的要素が多い部分もございます。そこに出られて話をするとするのは、ちょっとしんどい部分があるのかなと思うところで、私からはそう御提案申し上げます。

(会長)

ありがとうございます。三木の委員さんの方から意見の中で出てるんですが、小野ないし神戸の方で、今の三木の商工会議所の代表から言っているように〇〇委員の御意見について、何か御意見がありましたらお願いいたしたいと思っております。

併せて、今〇〇さんの方から、ワーキングという中でどうだという一つの御提案をいただいております。合わせて御意見いただければなと思っております。

(委員)

鉄道の問題というのにはある程度やる気とか知識、やっぱりそういうものがなければ余り話が進んでいかない。だから本当にやる気のある人、興味のある人、そういう人が集まって初めて話が進んでいく。形ばかりにこだわれば、それが活性化に浸透していかん、いきにくいと思うんです。だからもっと実際どういうことをすればいいんか、形も大事やと思うんですが、その後にもっと力を入れて、話をしていきたい。そのための部会と、そういうものは大いにつくっていただいたら結構だと、そういうふうに思います。

(会長)

ありがとうございました。神戸市さんの方からは、ちょっとございませんか。

(委員)

ちょっと商工の、神戸市の方もやはりこの形成計画、作りよるんですけども、もともと入っていたいてるのは地域の皆さん方ということでやっております、その辺の、神戸市が入ってるからこちらも入れるとか、そういう特に必要なくって、必要であれば入っていただいたらいいし、必要でない場合は入らなくてもいいのではと思います。

(委員)

専門性の話をすると、この部会自体が機動性を持ってということですので、ここのところはもうこのままいっていただくとしても、その最後、4-3ページのところの欄外、スケジュールの下に、計画素案の策定後はどうすると、協議会の意見を聴くということなんです。この辺のところ、特に住民の方々も部会の中に入っておられませんし、我々設計段階も入っていない。ユーザー側の意見が全くここのところでは入ってございませんので、ここのところ、策定後ではなくて、中間期必ず御報告いただいて、利用者の意見を必ずお聴きする、いただくというような形ですね、やっていただければいいのかなというようなことを思っております。

(会長)

前向きな御提言、ありがとうございます。先ほどの神戸市、神戸電鉄様の方から、ワーキングという形で適宜今のような形で御意見をお聴きしていく、そういうようなものを随時というような御意見賜ったんですけど、それについてちょっと具体的に御説明いただければ。

(委員)

その主旨ですけれども、今、神戸市商工会議所の委員の方から御提案がありましたのと全く同じでして、やはりユーザー側の意見が入っていない、行政と事業者で話をしますと、供給側の話に終始してしまいますので、やっぱりそういう観点を入れることが大事だと思います。形にこだわるものではないので、ぜひそういった機会を、今御要望がありましたので聞いていただいて、設けていただければということでございます。形にこだわるものではないので、ぜひそういった機会を、今御要望がありましたので聞いていただいて、設けていただければということでございます。形にこだわるものではないので、ぜひそういった機会を、今御要望がありましたので聞いていただいて、設けていただければということでございます。

(会長)

ほかに、何か御意見ございませんでしょうか。

それでございますと、これは議事を取らないといけないわけでございますので、これはスケジュールもこれ、議決事項になるんですか。どこまでが議決なんですか。設置だけでしょう。

(事務局)

はい、設置。スケジュールはもう参考ということでお考えいただいて、随時報告ということで。

(会長)

そうですね、そういう理解でよろしいですね。

(事務局)

結構です。

(委員)

議長、すみません。今の件ですが、御意見いただきましてありがとうございます。ただ、三木商工会議所、私、今日この場に臨む前にも打合せ会を行ってまいりまして、やはりまちの経済に非常に大きく関わっていることでございますし、行政の方でも大規模な集客施設等とお話も漏れ聞いております。そうしますと、やはりそこでリンクしてくる経済っていうのが、あるいは交通機関とどうリンクしていくかっていうのは非常に重大なところでございまして、やはりそれ、役に立たないとか、聞いてとってもあんたら分からへんからもう外しとくでっていうようなレベルじゃなしに、参加させてくださいと言ってるんですから、そのこのところをもうちょっと斟酌願えませんか、〇〇さん。参加させてください。分からへんかったら分からへんでじっとしときますから、何も茶々入れるようなそんな意味じゃなくて、一番大事なことじゃないですか。何で、商工会議所が、経済をまとめる、代表してる商工会議所が、神戸電鉄の大事なことです



から、形成ですから、そこへ参加させてくださいって言うてるのに、そんなことあんたらが聞いても分からへんやろってなことを言われてしまうと、身も蓋もないじゃないですか、〇〇さん。

(事務局)

ですので、〇〇さんの方から御提案がありましたように、そういうワーキンググループの中で十分御意見をお聴きすると。ただ、本当に計画づくり自体は非常に実務的であって、というところですので、そのいわゆるワーキンググループの中に入れていただくことで、十分な御意見等々についてはお聴きする場を設けたいと思っております。

(委員)

もう一回だけお願いします、議長。そこへ、分からへんやろうからって言うふうに聞こえますけど、何か行ったら具合悪いようなことあるんですか。

(事務局)

そんなことは全然言うてないので。

(委員)

実務的なことも含めて参加させてくださいと、私、三木商工会議所ってことで、三木の経済界を代表して来とるつもりなんですけども、そないに簡単にポイせんでもよろしいやん。

(事務局)

いやいや、そういうことではございません。

(委員)

入れてください。これ、委員の皆さん方お願いします。地域の代表とか地区の代表とかいろいろいらっしゃいますけど、本当に、これ1年、2年違うんですよ。神戸電鉄なんて5年、10年、20年、30年先のことを考えてやらなきゃいけないことなんです。それを、まちの経済を代表しているところが、産業、ゴルフ場だって電車に関連してるのに、分からへんやろとかそんなんで、ワーキンググループだけで、はい、この場でだめですよ、はい、案が出ました。それは〇〇さん、余りにも。

(事務局)

いや、そういうことではなくてね。あくまで計画自体は3市、3市の計

画ですので、そこを計画する、策定する中において、三木市だけの判断ではこれはいかない部分がございますので、その部分、じゃあ・・・。

(委員)

いや、三木市ではなくて、経済界の話も入れてくださいよって言うんです。

(会長)

ちょっと待ってくださいね。ありがとうございます、いい御意見。この議決事項には、部会員というのも議決事項になってるんですかね。どこまでが議事なのか、ちょっと分かりにくい。ちょっと今この議論をしますけど。

(事務局)

部会設置と一応委員については、御検討いただきたいということで、上げさせていただいております。

(会長)

委員も議決事項ということでございますので、本当に前向きな御意見を三木の商工会議所の方からいただいておりますありがとうございます。

議論がそれぞれ出尽くしておりますので、メンバーも含めて議決事項という形を取らせていただきたいというように思っております。何も本当に排斥するという意味で、あるいは分からないだろうからという、そういうような意味で事務局は提案しているわけではないと、ないわけでございますけれども、今のような事務局提案の形のメンバーで進め、神戸電鉄様のほうから御提案のあったようなワーキングで適宜フォローさせていただき、そしてまた、神戸市からの提案もありましたような、計画策定案の策定後ではなくて、策定途中段階の段階からお伺いをしていく、そのような方向でもって現行の委員案も含めて事務局提案のとおりこの第2号議案、形成計画素案検討部会、承知することにつきまして反対の方、御起立をお願いしたいと思います。

(委員)

何と言ったんですか。

(会長)

反対の方。

(委員)

反対の方ですか。

(反対者起立)

(会長)

ありがとうございます。反対少数、異議少数でございますので、第2号議案につきましては・・・。

(委員)

すみません、えらい申し訳ありません。よろしいですか。

(会長)

どうぞどうぞ。

(委員)

あのね、今、先ほどから商工会議所の方から言われたんですけども、ここの部会員及びオブザーバーの、ここまで入ってしまうということになると、正直今までずっとあったんですけども、私たちこの専門的なことが分かりませんので、お任せしますっていうような形でしてたんですけども、時間はできるだけ取るからっていうふうな形で言われてるんですけども、やっぱり参加はしていただいたらいいんじゃないかなとは思うんです。というのは、ここの中で、もうこれだけで縛ってしまうっていうふうな形になるとね、原案がこういうふうな形で何とか通してほしいっていうような形でしたら、私は住民代表という形でしたらなかなかここへ参加してくださいって言ったときに、時間的なものもとれませんし、正直こういう場で発言するだけのことだと思っんですけども、できるだけ、例えば商工会議所の方から何とか参加したいというふうな意見があるんだったら、そういう意見も考えていただいたらどうかなと思っんです。申し訳ありません、そういう意見です。

(会長)

いえいえ、ありがとうございます。〇〇委員の方から、今のような御意見を賜ったわけですが、いずれにしても決めごとで議事事項でございますので、いろんな御意見があろうかと思いますが、しかるべきやと思っんですが、一つ一つ議事を議決の中で取らせていただく中で、進めさせていただきたいと思っんですが、再度議決を取らせていただいたらいいということでしょうか。

(委員)

基本的なところの確認なんですけど、先ほども議長も御確認されたんですが、どこまでが決議事項かということです。本当にこの委員を決めることが、今求められているのかなってような気もするんですけど。私は本当に設置することにはもう全然反対を唱えるつもりは全くないんですけども、そうした意見がある中で、委員を決めてしまうっていうのはいかがかなと思います。

(会長)

はい、分かりました。そうすれば、先ほどの議決事項につきましては、少し撤回させていただきまして、私の進行がまずかったことをお詫びさせていただきたいと思います。

規約を読みましたら、メンバーは会長が別に定める者となるんです。このようになっております。そういう意味では、会長に全権が委任されておられるわけですので、今の御意見を踏まえていく中で、これはワーキングという形じゃなくて、本委員として三木市の商工会議所から前向きに委員として参加したいと、こういう表明があるわけですので、それを排斥する理由はないと。形にこだわるというのではなくて、参加したいということで、前向きな形で〇〇委員の方から三木の商工会議所の議決、意思決定を踏まえて今日この場に臨んでおられるということですので、基本的には議決事項ということではなくて、会長が定めるということですから、私の全責任ということで、今のメンバーの中に三木商工会議所を加えさせていただき、また以降も、御希望がありましたら私の方に述べていただければと思います。こういう入口論でもめたくないんです、会長といたしましても。できるだけ、活性化協議会というのは市民の方、利用者の方、いろんな、今回もメンバーの方増えてありがたいと思っております。当然、意見がその分増えてくる、当たり前だと思いますけれども、できるだけ皆さんの思いは一つでございますので、それに向けた前向きな形で進めていきたいなと思っておりますので、議決事項外という形で、まず議決事項につきましては、形成部会を、検討部会を、失礼いたしました、形成計画素案検討部会を設けるということにつきましては、全員御了解ということでよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり。)

(会長)

異議なしということでございますので、2号議案は左様に決し、メンバ

一につきましては今の時点におきましては会長が定めるということで、このメンバーに加え、三木商工会議所様の方の参加をお願いしたい、このように思っております。

(事務局)

事務局としてもそのように取り計らいます。

### **議事 3 号 平成 2 8 年度の協議会の取組方針及び重点事業（案）について**

(会長)

それでは次、3号議案という形で、28年度の取組方針と重点事業（案）につきまして、事務局からお願いいたします。

(事務局)

失礼します。資料の5-1を御覧いただきたいと思います。平成28年度の協議会の取組方針と重点事業（案）ということで、御提示をいたします。

取組方針につきましては、今現在、正にこの協議会で取り組んでおります総合連携計画に基づいた栗生線の利用促進、これを着実にやっていくことはもちろんですけれども、それに加えて形成計画の策定についての協議も行わせていただくということでございます。28年度の重点事業としては、そこに掲げる3点を書いてございます。

1点目は、総合連携計画の着実な推進ということでございまして、28年度については現在の計画の最終年度、満了を迎えますので、計画期間中に実施した各種の施策の取組効果を検証する必要があるというふうに考えているところです。

2つ目については、形成計画の策定協議ということです。

それと、3つ目でございますが、神戸電鉄栗生線利活用方策検討委員会における提案施策の事業化ということで、掲げさせていただきました。県が事務局となって立ち上げられた利活用方策の検討委員会、さまざまな提案施策がございましたが、できるところから協議会、あるいは協議会を越えた各市の事業にもなりますけれども、そういった事業の実現に取り組んでまいりたいというふうに考えているところです。

資料の5-2、5-3を御覧いただきたいと思います。28年度の重点事業、主な施策についてのみ抜粋して申し上げますと、一番右、右側の欄です。(1)輸送サービスの改善という大項目の2番目、割引制度の充実という点では、三木市の方におきまして神戸電鉄の福祉パスの交付というもの

を開始しております。併せて、神戸市さんにおきましては、神鉄のシーパ  
スワンの継続ということを取り組んでいます。

(1)の4番でございます。快適な駅、車内空間づくりといたしまして、志  
染駅の市民トイレの整備ということで、利活用方策の検討の提案の中でも  
あったわけでございますが、駅施設の整備ということで取り組んでまいり  
ます。

それから、大項目の(2)、駅勢圏の拡大というところの6です。バスとの  
効果的な接続という点では、木津駅と神戸産業、神戸複合産業団地を結ぶ  
バスの無料運行ということで、社会実験を伴う施策、こちらの方も検討委  
員会から出された提案です、提案でございます、こちらの方も実施をし  
てまいるという内容になっています。

大項目の(3)、利用、定期利用者と交流人口の拡大というところの8の項  
目ですが、沿線地域における観光資源の活用と魅力の発信という内容では、  
引き続き金物まつり等の大型事業について連携を図り、粟生線の利用を呼  
び掛けてまいります。

ページをめくっていただきまして、5-3というところでございます。  
5-3ページの小項目の16です。学校、自治会等と連携した利用促進啓  
発活動の推進ということでございますが、そちらについては先ほどもちょ  
っと意見の提案をいただいております。ワーキンググループによる利用促  
進施策の検討といったことで、粟生線の現状あるいは利用促進について、  
気軽に話し合いが持てるような場をつくっていききたいというふうに考えて  
いるところです。併せて、学校あるいは自治会等への出前講座といったよ  
うなことで、昨年度に引き続いて協議会として取組をさせていただきたい  
というふうに考えているところです。

それから、続きまして資料の5-4になります。右下、ページ番号の5  
-4をごらんいただきたいと思っております。粟生線の通勤定期転換補助金、い  
わゆるC o m e B a c k補助金の件でございますが、こちらについて、通  
勤定期の通用開始日を1年間延長させていただきたいということでござい  
ます。神鉄以外、例えば車などから神鉄へ移動手段を転換される方を対象  
に、6か月定期の運賃の半分ということでございますが、その期間を1年  
間延長させていただきたいという内容になっています。その他、組織改正  
に伴って組織の名称も変わって改正をしております。

5-5から5-7につきましては、改正内容を溶け込ませた両方の全体  
図を載せておりますので御覧いただきたいと思っております。

事務局からは以上でございます。

(会長)

ありがとうございました。先だって神戸電鉄の委員の方から、〇〇さん

の方から、ビッグデータの活用という形でお問合せを2点ほどいただいております。その関係で、今後この協議会としてこの重点事業というんでしょうか、事業を進めていく中におきまして、〇〇さんの方からいただいております中で、この協議会とすれば、先だってビッグデータを用いた数字というものが一つの、こういう切り口もありますよという形で御提案いただいたものだとは私は受けとめておるわけですが、我々協議会とすれば、これまでの、例えば700万人の目標とか、いろいろな形の中で利用されている人数というものをどちらの指標でもって捉えていくのか、併せてこの28年度事業になるのかどうか分かりませんが、関連ということでございます。この場で議論をしていただくのが一番いいなと思いますので、いわゆる、例えば仮でございませうけれども、バスで転換するとかいうようにしたときに、そういったときに、どのような輸送台数があるのかとか、そういうくくりにはどちらのデータを用いておく方がいいのかどうか、そういう意味でございませうね、〇〇さん。そういうことですね。

そういうことも決めておいた方が、前回からの延長上でいったときに、ぎくしゃくとした議論にならないのではないのではないかと。それでちゃんとみんなの合意の中で決めて進めていった方がという、そういう意味の御提案だったと思います。大変議論の場が遅れたことを謝りたいなと思っておりますけれども、それも併せてですが、その点について何か、事務局ないし、今日は・・・。

(委員)

私の方から理解を述べさせていただいてもよろしいか。今おっしゃったことについて、こう理解してこういうふうにしてますっていう説明をさせていただいた方が多分いいのかなと思ひまして。

(会長)

分かりました。議論を深めるという意味で、それじゃ〇〇さん、あとお願いいたします。

(委員)

まず、ビッグデータの活用という観点でございませうけれども、この資料で去年やったことをどう活かしていくのかっていうようなのは、大体で落ちてると思っております。

一つは、ビッグデータを活用した将来予測シミュレーションというものは、形成部会、形成計画をつくる具体の中でやりますよということが書いてあります。ビッグデータを活用しますと、例えば何々駅と何々駅の間は、

どの時間帯にどれだけの人が乗ってるということが分かります。例えば、朝ラッシュ時間帯に、例えば万が一に粟生線が継続できなくなったとなった場合に、その代替手段をどう確保していくのか。そういったことはこういうデータを使わないと、本当の議論ができません。ですから、この形成計画の策定部会においては、基本はそのビッグデータから得られたデータを用いながら検討を進めていくこと、これが求められているかと思えます。

一方、従来から発表してきております輸送人数、目標等は、これは神戸電鉄はそのデータしか御提供できません。ビッグデータについては、昨年私が各会社の、神戸電鉄と連絡する阪急や阪神、地下鉄、山陽、これらに頭を下げて営業秘密を開示していただいたから得られたデータでございまして、今後得られる保証は全くございません。ですから、利用促進目標であったり、結果を論じる場合には神戸電鉄が提供するデータを従来どおり使っていただくしかありませんので、その指標をもとに議論をさせていただければと思っております。

また、去年得られた知見により、例えばビッグデータの部分ですが、従来データも得られる話ですが、こういうことをやると利用が増えてますよ、というものが得られております。それは両方のデータを活用しながら検討を進めたらいいのかなというところです。

ざっくりとした説明ですが、そういう区分けと考えていただければなと思えます。

(会長)

皆さんがイメージしやすいような提案をいただきまして、本当にありがとうございます。今の〇〇委員からのフォローも踏まえて、少しこの点について事務局ないし、行政側一体で事務局を構成してと思えますので、三木市もさることながら、他の市等でも御意見がございましたら、補足なりをしていただければありがたいと思えます。

(オブザーバー)

よろしいでしょうか。ただいまの御指摘のことについてなんですけれども、御指摘のとおりでございまして、700万というデータはですね、従来データに基づくものでございますし、経年データ、経年変化を見るためにはやはりこのベースの従来データを使うしかないということですので、今後もこのデータを使っていくということになるかと思えます。

というのが一点と、あと2点目の、どういう形で使うのかという分なんですけど、これにつきましては先ほど来からございますように、実数データですので、時間変移であるとか、あるいはイベントがあったときにどういうふうに変化した、あるいは利用券種であるとか、そういったものもこの



データで分かりますので、先ほど来、御指摘のバス転換の場合のシミュレーションであるとか、そういったものに使っていくということになるかと思えます。

(会長)

今、大体、〇〇委員のおっしゃってることと、ほぼ、というか全く同じような形で考えておられると、おるといふことでございました。

(委員)

今、神戸電鉄、この活性化協議会の利用者の目標設定しながらずっと皆さんの努力で進めてきたわけですが、行政からもその神戸電鉄の非常に厳しい状況を市民に伝えようということで、広報等を毎月掲載しながら神戸電鉄の状況を、今何万人乗っているというような形で伝えてきたわけです。

で、今、去年そのビッグデータを活用したデータを用いて、今2つの数字が出てきておるわけです。その差は約190万人の差がある。例えばこの活性化協議会でいろんな事業をやって、神戸方面から仮に利用者がイベントに集客したとした場合に、今どういう数字かといいますと、一つの神戸電鉄さんの基準に基づいて今まで発表されてきたわけですが、そしたら三宮からずっと新開地経由で三木市まで乗ってこられたという、そういうお客さんがおられたときに、この方の利用者数というのは、今の神鉄方式のカウント数で言えば、利用者の増に1人も増につながらないという、そういう基準になっておるわけです。その収支につきましても、例えば新開地とか湊川とかで切符を買われて乗られた収入というのは、粟生線の今赤字何ぼとかいう、そういう収支の中には反映されてない、収入としても上がってない、こういう数字かなというふうに思っています。

ただ、実際に今、神鉄の根本的な議論をする場合には、その神戸電鉄を、神戸電鉄さんは粟生線の一つ切り離した場合に、収支がどうで、それからというような議論もあるわけですが、切り離して考える場合には、そしたら実際に実態的な利用者の数、それから実体的な収支という、そういう数字というのは、私としたり必要不可欠な数字であろうというふうに思っています。

2つとも数字が間違いという認識はしてない、それからビッグデータを活用したデータが毎年は出せない、これは理解しております。ですから、神鉄さんが言われるように、協議会で今後経年変化を見るような数字はこれまでどおりの数字を上げて、これも致し方ないのかなと思っておりますが、今後の議論にもよりますけれども、根本的議論を進めるに当たっては、実際にどうなんだという、やっぱりそのデータというのは必要不可欠であろうという認識をしておりますので、よろしく、その辺はよろしくお願い

したいというふうに思っております。

(委員)

形成計画の部会を受けることになりましたので、一言だけ。データの使い方も、答弁、事務局の方がおっしゃられたとおりでいくのは基本だろうと思っております。どうしても売上ベースのデータ、今まで神戸電鉄が発表されてた売上ベース、裏付けがあって出すわけですから、それは癖があるのはみんな分かってる、業界の人間は分かった上でデータ分析してますので、ただ今度、ビッグデータがあったのでそれがどの程度の癖なのかというのは、それは裏付けが取れるんでそれは非常にありがたいなと思っております。

ただ、そういうことの、この中でおっしゃった、本当に現実のデータがちゃんと取ればいいんですけど、現実のデータって、何が現実か非常に難しいところがありまして、費用配分も、そしたら売上配分としてはどうするのかという議論になっていきますので、何らかの前提を介してもできないことにはなるんです。で、多分、形成計画の議論もそうですし、戦略で御議論されるかと思いますので、そのあたり、こう仮定を置いたらこういう議論になるけどどうするっていう形です。たぶんコストベースで御議論されるんだと思うんですけども、そういう議論に少しはお手伝いできればいいかなというふうに思っております。ただ、データのハンドリングはですね、いずれにせよ非常に誤解を招くことの方が多いのは理解してまますね。そのあたりはしっかりしていきたいと思っております。

(会長)

〇〇さん、どうぞ。

(委員)

先ほどの〇〇委員の御説明の中で、1点だけちょっと御認識、誤認がありますので、補足だけさせていただきます。

輸送人員のカウントにおいては、確かに三宮から乗られた方、有馬線に輸送をカウントしますので、粟生線の人数のカウントとしてされません。しかしながら、収入については鈴蘭台からこちらの粟生線に乗った分についてを計上した上で、損益をはじいておりますので、そこは誤解のないように。乗った分が収入カウントされないことではございませんので、そこは誤解のないようにお願いします。

以上です。ちょっとこれ専門的なところがありますので、詳しいことをお知りになりたい人がございましたら、私補足しますから、会議が終わってからもお聞きいただければなと思っております。決してそこは、はじいてるわけではなく、そうしますと収支の前提が狂いますので、私どもうそをつ

いてるということになりますから、そこは否定させていただきます。

(会長)

ちょっと今、こちらの関連で〇〇委員、どないですか。今のあれに対して。

(委員)

収入につきまして、また、そういう認識で改めさせていただきたいと思いますが、いずれにいたしましても今後の議論の中では、粟生線を単体で切り離してというような視点での議論もありますので、その点については利用実態にしろ、収支についても、そのへんのデータというのは今後必要になってくるであろうというふうに考えているところです。

(委員)

指摘の趣旨は了解しております。

(会長)

では、〇〇委員。

(委員)

神戸電鉄さんはビッグデータの根拠も理解はなさってるんですね。それを把握すれば、そのカウントされるという・・・。

(委員)

もちろん、私どもの提供したデータなので。

(委員)

お金はちゃんと計算されてると、今おっしゃてましたよね。ただ、8百何十万人はこの前、新聞出ちゃいましたよ。ですから、少なくとも私が住んでます地域の新聞に出てましたので、神戸電鉄うそついてるって、皆さんは思われないでしょうけども、一瞬私も思いましたから。そのへんは大変だと思いました。

(委員)

そうですね、そういったことでもございましたので、先ほど御指摘させていただいたところでございます。

(委員)

ですから、このまま委員会のやっぱり情報開示というのがすごく大事やと思います。

(会長)

それでは、すみません。ビッグデータの方にばかり議論がいつてしまいましたので、私の進行が悪くて申し訳ございません。

この3号議案といいますのは、基本的にはこの資料の5-2から掲げておりますような事業計画、小項目でいきますと22の項目が上がっております。これが、この中には、この中のいくつかは昨年度の利活用方策検討委員会の方でいろいろ御提案いただいたものも踏まえて現実のものにしていくといったものも盛り込まれておるわけでございます。そういった意味からも、先ほど私の方から戦略会議について端折った説明をさせていただいて非常に申し訳なかったわけでございますが、この利活用検討委員会というのが平成27年、昨年度の県の設置要綱でいきましたら単年度の、昨年度の設置要綱に基づいたものになってるわけでございますが、当然それを踏まえて今年度も当協議会としてこういう事業を継続していくわけでございますので、この利活用方策検討委員会というものはある意味事実上継続していくと、そのように理解をさせていただきたいと思うんですけれども、この件については〇〇さん、いかがでございましょうか。〇〇さんですか。

(委員)

利活用の・・・、兵庫県の〇〇です。利活用方策検討委員会につきましては、この神戸電鉄のですね、粟生線の利活用促進というのはわりあい課題といいますか、引き続き継続してやっていくべきものと考えていかないといけないなと思ってますので、この表現のこともあるんですけども、(3)の事業化を進めるだけじゃなくて、当然事業化した後の効果の検証と、引き続き利活用方策についても検討していくというふうな表現をされたらどうかというように思いますけど、どうでしょうか。

(会長)

今は5-1の(3)、ですね。要はPDCAサイクルの方をきちんと盛り込んでいこうじゃないのかと、それの方がより前向きじゃないのかという、委員の御提案だと思えますけど、事務局からございますか。

(事務局)

(3)の、「併せて～」というところにも書いてございますけれど、効果の検証、そして、今後策定する形成計画にもこの利活用の施策については盛り込んでいきたいと考えておりますので、計画の中に掲げるということに

なりますと、P D C Aサイクルがかかってきますので、そのあたりについては取り入れていきたいというふうに考えております。

(会長)

それでは、そのあたりについては表現を直していただくということによろしいですか。

(事務局)

はい。

(委員)

下から2行目の、「併せて、提案施策について、～」というのは提案施策というのは、27年度の検討委員会で提案した施策を指すんですか。それとも、今後28年度の引き続き検討委員会でいろいろ議論して提案していく施策も含めての話ですか。

(会長)

はい、事務局どうですか。

(事務局)

ここでの提案施策は、27年度で御提案いただいた内容を書いております。

(委員)

すみません。そういう意味では、先ほども言いましたように、昨年度委員会で検討しただけで終わるんじゃなくて、引き続き、利活用方策についても引き続き検討を重ねていくという文言はどこかに入れた方が私はいいと思います。事業化を進めるだけじゃなくて。

(事務局)

そしたら、そういう形で「引き続き、利活用方策についても検討を行うこととする」というような文言の方をちょっと入れさせていただいて、最終的には皆さんの方にこういう形になりましたということで、書き変えた分は送らせていただきたいと思います。

(会長)

要は、今の〇〇委員の御提案は、事務局が考えられてたような27年度の、昨年度の利活用方策検討委員会で御提案内容にとどまるのではなく

て、プラスアルファのものを、また、P D C A サイクルをやっていくとともに、今年度また、こういうものもあつたら検討したらどうだ、それもプラスアルファしていつて付加してもいいんじゃないのか、こういう御提案ですね。はい、そのように修正をさせていただきたいというように思っております。

併せて、ビッグデータとの関係でいきますと、整理をさせていただきたいと思いますが、当協議会として目標数値を置くとか、いろいろ検討するに当たりましては、やはり過去との対等での関係での連続性というものをやはり問われてこようかと思っておりますので、従来のような神戸電鉄さんのデータというものを、国土交通省に出されておるデータだと思っておりますので、それをベースとさせていただく中で、しかし小野市の〇〇委員の方からも御指摘ありましたように、今後、私も言ったんですが、戦略会議の前段としてその利活用検討委員会ないし効果検証委員会、こういったものでの事務方での検証なり勉強会というものが形成部会の方に反映されてくると、このように思っております。そのような中では、代替輸送だけではなくて、いろいろなものを検討していくに当たりまして、そのデータを、どのようなデータの取り方がいいのか、そういったものも併用していく中で、それについては議論を深めさせていただきたい。ただ、〇〇委員おっしゃってますように、時系列でその後のものがシークエンスで取れないわけですから、その辺の問題点というものはどう考えるのかということを中心に念頭に置きながらでしょうけども、そのような取り扱いでよろしいでしょうか。

それでは、3号議案について決をとらせていただきたいと思います。今年度の協議会の取組方針並びに事業、重点事業（案）につきましては、一部修正が5-1の(3)ではございますけれども、議決させていただいてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と言う者あり。）

（会長）

異議なしという声がございますので、そのように取り計らいさせていただきます。

**議事 4 号 平成 2 8 年度の協議会の歳入・歳出予算（案）について**  
**議事 5 号 平成 2 8 年度の協議会特別会計の歳入・歳出予算（案）**  
**について**

（会長）

それでは、第 4 号、そして第 5 号、いわゆるこの協議会の歳入・歳出予

算、あるいは特別会計の関係、4号、5号議案、セットで事務局の方から御説明いただきたいと思ひます。

(事務局)

お手元資料の6-1、7-1でございます。先に議事の4号、本協議会の歳入・歳出予算ということで、こちらにつきましては従来から協議会が取り組んでいます、いわゆる利用促進に焦点を当てた会計というふうに思っていたらよろしいかと思ひます。

歳入の方ですけれど、まず協議会を動かしていく基になりますお金ですが、神戸市、三木市、小野市、そして神鉄の4者からの負担金ということで、400万円×4の1,600万にしております。補助金につきましては、昨年度は県からの補助金でしたが、今年度は予定されておられませんので、科目存置といった形で置かせていただいております。歳入総額が1,600万3千円にしております。

続いて、歳出の方でございますが、運営費といたしまして昨年度と同額程度を、同額を置かせていただいております。1,600万との差額につきましてが事業費ということで、予定をさせていただきます、歳入・歳出ともに収支を収めております。こちらが本協議会の予算案です。

続きまして、次のページ、資料7-1の方を御覧いただきたいと思ひますが、このたび協議会に特別会計を設けさせていただきたいという提案でございます。まず、1の特別会計の設置というところでございます。これまでから議論いただいておりますように、形成計画の素案、素案づくり、素案の検討、形成計画の策定につながる経費につきましては、形成計画を策定しようとする沿線3市が負担すべきものでございます。こうしたことから、従来の粟生線の利用促進を目的とした従来の会計と区分して経費を行う必要があるというふうに考えております。このため、協議会の財務規程に基づきまして、会長が別に定めるものとして協議会に特別会計を設置するという提案でございます。

予算の内容ですが、歳入といたしましては、まず負担金、こちらは神戸、三木、小野の3市の均等による負担金を計上しております。それから2の補助金といたしまして、国の方に補助金の交付、手を挙げております。内示の段階でございますが、570万という金額の御提示が国からございます。そちらを原資といたしまして、歳入として1,184万9千円を組んでおります。

一方、歳出の方でございますが、部会につきましてはいわゆる素案検討部会ということで、今のところですが年5回の開催を予定しております。事業費につきましては、先ほど申し上げました、部会が取り組んでいく検討事項に必要なお金として1,134万7千円、歳入・歳出1,184

万9千円として収支の均衡を図らせていただいているところでございます。事務局からは以上でございます。

(会長)

はい、ありがとうございます。従来に加えまして、今回形成部会を設けるという形で、特別会計的なものを設けるという形で、2本立ての案で提案をさせていただいてるような経緯がございます。この点も踏まえまして、事業を行っていく裏付けとなる予算、非常に重要なものがございますので、御意見賜りたいとこのように思います。

(委員)

すみません、神姫バスの〇〇です。ちょっと冒頭自己紹介遅れまして。地域公共交通担当をやっています。どうぞよろしく願いいたします。

そうですね、この予算の方で、28年度実質というふうに記載されてあるんですけども、具体的な施策として、(2)駅勢圏の拡大の6番目の、バスとの効果的な接続、こちらの具体的な施策に、平成28年度の中に木津駅と神戸複合産業団地を結ぶバスの試験運行、そういうふうに記載されておりますけれども、これを無料シャトルバスで運行するというふうなお話が途中にあったと認識しております。その分につきまして、その裏面を、5-3を見ますと、注釈文で一番長い2行目の注釈文の後ろの方なんですけど、「主体が単独で行う事業を除き、原則として協議会が神鉄観光株式会社に委託する形で実施する」というふうに、事業者が設定されているように書かれているんですけども、これはそういう認識でよろしいんですか。

あるいは、何らかの補助をいただきながら運行する形態の運輸事業につきましては、独自運営する路線バスをいじめないという国のガイドラインとなっておりますので、そのあたりきっちり住み分けした上で実施されるのかどうか、そういったことをちょっと御質問させていただきたいと思っております。

(会長)

分かりました。前のときにその辺、議論してたので申し訳ございません。この点につきまして、説明いただけますか。

(事務局)

すみません、神戸市の〇〇です。1点目の、木津のバスの実験の無料化という点につきまして御説明いたします。三木市事務局の方から無料の運行という説明がございましたけれども、これはまだ運行形態とか、有料、無料、グループも含めて、これから決定していくことにしております。



現段階では無料と決まっております。訂正いたします。

(会長)

そうすると、今、御質問ございました神鉄観光株式会社とか、これもまだ委託先も・・・。

(事務局)

神鉄観光の件は、木津バスではなくて全体的な利用促進の事業にかかるようになって、事務局から回答をお願いします。

(会長)

はい、申し訳ございません。

(事務局)

ここで書いております内容につきましては、利用促進の分、例えばいろんなこれ以外のことで利用促進をしております。例えば会議の実施、いろんなそういったものの段取りというんですか、そういったことについては神鉄観光の方に委託をするというふうなイメージですので、特にどの部分を指して言ってることではなく、全体的に、例えば事業をする場合、どうしてもそういった事業者さんのお助けが必要になってくる部分というのはございますので、そこを神鉄観光にというふうなイメージで書いておりますので、そここのところは御理解いただきたいと思えます。

(委員)

すみません、ちょっと、今補足していただきましたが、括弧書き、この表に落ちてる括弧書きの部分というのは、基本的に各市が単独で実施する事業という区分になっておりまして、この神鉄観光に委託する業務に含まれません。この木津のバスの試験運行につきましても、兵庫県、神戸市、神鉄と記載されておりまして、協議会が負担する事業とは別に実施するものとして記載されておりまして、そこは会計も区分されているというところでございます。

以上、補足させていただきます。

(会長)

そしたらこれ、協議会事業ではないということですか。ここの分については。

(委員)

協議会事業と各市が取り組む事業と・・・。

(会長)

いや、分かります。ここの記載は不正確というか、この米印・・・。

(事務局)

ですので、例えば単独でやる場合には括弧にどこどこ市というような表現を書かせていただけてまして、単独市でやる場合、あるいは協議会としてやる場合ということで、ちょっとややこしいんですけど、そういう表現をさせていただけてます。ですので、括弧に何々市と書いてある部分はもう単独でやる、それ以外につきましては協議会事業としてやると、そういう御理解で、御理解いただきたいと思います。

(会長)

ちょっと分かりにくい。今の説明で分かりました。この米印は3つあるので、全体にかかる部分もあれば、例外的に括弧で何々市とか県とか書いてあるのは、そこがやると。

(事務局)

そういうことです。

(会長)

併せて、今、〇〇委員の方から御質問ありました有料、無料とか云々というのは、事務局の説明は間違っていたということで、これから調整をしていくということでございます。よろしいでしょうか。

ほかにもう1個、いわゆる従来 of 会計、特別会計につきまして、特にございませんでしょうか。

それでは第4号議案、第5号議案について議決を取りたいと思います。

これについて、提案のとおり進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と言う者あり)

(会長)

異議なしとお声が上がりましたので、そのようにさせていただきます。

それでは、5つの議事事項を終わりました。非常に時間が、定刻になっているわけでございます。非常に大事なものでございますので、続けさせていただきたいと思います。

### 3 報告事項

#### (1) 神戸電鉄粟生線の状況について

(会長)

報告事項として3点ございますので、事務局の方から簡潔にお願いしたいと思います。まずは神戸電鉄粟生線の状況について。これは〇〇委員の方から御説明いただけるのでしょうか。

(委員)

私の方から、資料8-1、2、それとちょっと議長に確認を取っていただきたいと事務局から言われている資料がございまして、今日はですね、委員の皆様がこれまでと違って、形成計画の策定も含めて議論していく、法定協へ移行をしたというところから、新しく委員になられた方にも粟生線の状況を、厳しい状況をやっぱり御認識いただくことを優先したいなと思っておりまして、先日、1月に市長宛てに要望書を当社から出させていただきました。その内容を説明するものではないんですが、それを引用しまして今の状況を御説明したいと思っております。資料、その資料も配付させていただいてよろしいですか。

(会長)

ああ、結構ですよ。

(委員)

じゃあ、私どものほうから説明させていただきます。従来の資料につきましては、本当に簡潔に御説明申し上げます。

資料8-1でございますけれども、これに昨年度の輸送実績並びに対増減率が落ちております。増減率等について、これまで詳しく御説明してきましたような時間がないので、今日はこの赤字のところだけ見ていただいたらなと思っております。昨年度の粟生線の輸送人員につきましては、その前の年の656万人から10万人減少いたしまして、646万人ということになりまして、統合連携計画に定める700万人の目標に対し、54万人未達ということになってしまいました。

その点だけまず押さえていただいた上で、今お配りさせていただきました要望書、この提出した背景であるとか、趣旨であるとかというところを御説明申し上げたいと思います。

この用紙の中には、非常に注目すべきことが1点書かれております。それは、最後のページに書かれており、後で読んでいただきたいというところでございますけれども、その前に1点だけちょっと誤解のないように言

っておきますと、今日は今から非常に聞くのも嫌な話を聞くかもしれませんが。ただ、私もこの嫌な話を言いたくて御説明するのではなくて、やはり現実というものを理解した上で対応を取っていく、みんながそうやって対応を取っていくこと、これが大事だと思っておりますので、あえて御説明をさせていただきますので、その趣旨で聞いていただければと思います。

(会長)

全然それはやぶさかじゃないんですけれど、報告事項の一連としてされますので、資料の主客転倒がないようにだけ。本来は粟生線の利用状況という中でございますので、その辺だけお汲みいただいて、簡潔にお願いします。

(委員)

分かりました。いろいろですね、この協議会でいろんな取組を行ってきた、利用を増やしていこうということで取り組んでおりますけれども、また一方で、当社も収支改善等に努力しまして、収支の改善も進んでいるところでございます。しかしながら、厳しい現状というのは変わっていないところで、みんなの認識を共有しとれないといけないのかなと。今、その取組を進めてきた中で、私が非常に、現場に入っているいろんな御意見を聴き、取組もさせていただいている中で、非常にネックと認識していることがあります。それは何かといいますと、この問題に対処している、それぞれ主体がございませけれども、その思いであるとか、危機感というものの共有が図られていないなど。それぞれ熱意を持っていろいろなことをやっていたらいい。これは非常に感謝してまして、実際それによって収支の改善を果たしてきた部分もございまして、存続維持ができていますところであると思っておりますが、ただ、そこに対する理解がいろいろまちまちであって、〇〇さんが先ほど御説明いただいた戦略会議の立ち上げもなかなかうまく調整がいていないというようなところでして、そこは皆さん共通の認識を持ってほしいなというところでございます。

その中で、利用の実態でございますけれども、まずはこの5月21日、ダイヤ改正をさせていただきます。これについては先般ニュースリリースしておりまして、一部ちょっと小野－粟生間で北条鉄道やJR加古川線に接続しない電車の減便はございますけれども、大きな減便等はありません。しかしながら、次の対策として考えているのは、西鈴蘭台から志染間、こちらの昼間時間帯の輸送実態が1時間に1本程度でも十分対応していけるような状況になっておりまして、収支状況を鑑みる中で、減便の検討を進めているということをお伝えさせていただかないといけないのかなと思っております。

それと、いろいろと御支援をいただいて、また当社の自助努力をやりながら、収支の改善に努めてまいりまして、実は業績予想の修正を発表しております。その中で、当社は当期利益が12億円を超え、過去最高益となることを発表いたしております。これを聞きますと、皆さん、「あ、神戸電鉄よくなったから粟生線は大丈夫なんだ」というふうに思われるかもしれませんが、実はそうではなくて、この収支改善がどういう形で行われていったかということ振り返っていただきますと、この5年間、私たちは利用促進に取り組む一方、神戸電鉄は2012年に大幅な減便を実施いたしました。そういったコストの削減、あるいは利用者の負担をいただく中で、達成してきた数字でございます。輸送人員がそのまま下げ止まらないようですと、この負担がもうそろそろ限界に差しかかっておりまして、この限界というのもですね、単純な例で申し上げますと、神戸電鉄の運輸収入はピークから言いますと50億円も減収していることになります。

この協議会では、ともすれば粟生線だけの話をしてまいりましたけれども、実は数で言えば有馬線の減少がむちゃくちゃ大きいわけです。粟生線700万人ぐらい、ピークから減っておりますが、一方で神戸電鉄の有馬線は2,000万人ピークから減っている、こういう状況でございます。

こういう中で、利用者負担、あるいは私ども株主負担、もう配当は1999年度から実質的にしてない、まさに株式会社としてはその責任を全うしてない、こういった状況になっております。こういった中で、収支がよくなってきますと、負担をかけている利用者の方、あるいは給与をカットされている従業員から、あるいは株主の方から、もうその負担を解放してほしいと、そういった圧力がどんどんかかってまいります。これはコストが増える要因になるわけですが、最高益といいながらも、やはりその厳しい状況、粟生線の大きな赤字がなくなる限り、その厳しい状況は変わらないというところをまず御理解いただいて、協議会における議論をしていっていただきたい、その状況をまずは理解していただきたいということでございます。

それと、今日の議題の中にもありましたけれども、そういったことを踏まえて、地域の公共交通のあるべき姿を根幹的なところから議論するというところで、議長の方から非常に御尽力いただいて、御調整を賜っているところで、先ほどはどうかかなと思っていると、まずは担当というか、実務ベースでしっかりと議論をして、首長で議論できるような状況を整えてから議論していこうよという御提案があり、私もそれは賛成をするところでございますけれども、ただ一方で、今申し上げた状況っていうのは非常に厳しいものでございます。私どもも、このような状況を続けながら、もう一方で鉄道事業者としての使命、いわゆる地域の足を確保し、安全輸送を確保しながらそれを達成していく、これをしていくには非常に厳しい

状況、何をとといいますと、いろんなことを抑制してますと、やっぱり安全の担保というかマージン、これがやはり厳しくなってきました。そうなりますと、嫌な話ですが、廃止なりそういったことも検討せざるを得ない、これは本当に事業者しか分からないかもしれませんが、そういうような状況に置かれているということを踏まえまして、市長が「大体この2月ぐらいに戦略会議を立ち上げて、6月ぐらいまでに方向性を示す。それをもとに形成計画をつくって、みんなで取り組んでいこう」と。場合によっては、支援スキームを見直そうということで、先日の協議会でも投げかけていただきましたけれども、私はそのスケジュールはぜひ死守していただきたい。こう思っておりますので、関係の皆様が先ほどこちょっと申し上げた思いがちょっとばらばら、危機感ばらばらの面があるんじゃないかと申し上げましたけれども、まずはそこを統一していただいてから、そういったところへ進んでいっていただければと思っております。ちょっと嫌な話もしましたけれども、そういった皆さんの協議いただいて、何とか存続に向けて一緒に取り組んでいきたいという思いですので、よろしく願いいたします。

以上、報告とお願いが入りましたけれども、現状でございます。

(会長)

現状と、1月ですね、今年、年明けてから関係沿線市の市長の方に出されたものを前もっての御説明でございました。

1つだけお話ししときたいんですけれども、地元紙の報道で読んだんで、私の読み間違いやったらお許しいただきたいんですが、その神鉄におかれては、経営計画で示した利益目標などが前倒しで達成できる見通しだと、こういうふうな御発表もされたのかされなかったのか、ちょっと記憶が定かじゃないんですけれども、それと今おっしゃっておられる、ベースが厳しいということはよく分かるんですけれども、それとの関連はどのように理解させていただいたらよろしいのでしょうか。

(委員)

我々企業は、タームを区切りまして、例えば3年なり5年なり、そういった短い年次での達成目標を定めます。自治体も同じかとは思いますが、まずそれをクリアすることがステークホルダー、皆様の信任を得ることのできまので、まずはそこに向けて全力を投入しております。ですから、先ほども最高益ということを上げましたけれども、その設けていた、2016年度を最終に、ここまで会社を改善しようという目標に対してはクリアさせていただきました。それも前倒ししてということでございます。しかしながら、それは「まずはここまで改善しよう」の目標であって、

根本的に立ち直ったというものではございません。詳しく言うと、もっといっぱいしゃべりますけども、まずはそこで御説明を終わらせてもらって。

(会長)

基本的に私ども、戦略会議が遅々として進んでいないのではないかと、そういうことへの御質問、あるいはそれについての考えを問われてると思いますので、先ほども申し上げさせていただいております、私どもの方も何も調整が遅れてるとか、そういう問題ではございません。いろいろお考えある中で、それを調整している中で、そういう問題はどういう具合にも出てこようかとは思いますが、基本的には神戸電鉄を何とか残していきたいというのは、ここにいらっしゃる皆さん方が共通の認識課題だと、このように思っております。そのような中で、何もトーンダウンしたとか、あるいはそれぞれのここにおける、特に行政体についての思いが、御社の思いと大分かけ離れているのではないのかとか、そういうふうな意味合いにも今のあれで取れたんですが、そういうふうには私どもは思ってはおりません。

しかしながら、私自身の思いとすれば、先ほど〇〇委員さんおっしゃいましたけれども、先だっの1月のこの会議で、今委員おっしゃったような方向での進行というものを申し上げさせていただいた以降に、やはりもっと経営計画で厳しい状況が出てこられるんじゃないのかなと、そういう思いが正直言ってございましたけれども、御社の方の記者発表の方で、前倒しでの達成ができるというような、非常にこれはいいことなんですけれども、その時点その時点で捉えていくので、それが決して中長期的なものではないとかいう御説明はあるものの、たまたまそこに合わせ、そういうような報告があったといえ、併せて今回の進め方を考えていくに当たりまして、いわゆる形成計画というものを一つ一つ詰めていくに当たりまして、先ほど冒頭に申し上げましたような利活用方策検討委員会なり支援効果検証委員会なり、そういったものの中で一つ一つ詰めていくこととリンクしていくことがかなり出てくるのではないのかと。そういった事務方での詰めを経た中で、政治家の方の首長の方へ上げていく、そういう前さばきが必要じゃないのかなというふうに考えさせていただいたわけでございますので、調整、進捗が遅れているというふうにとられてもやぶさかではないんですが、意図はそういう意味でございますので。

併せて、御社の経営努力もさることながら、ここにいらっしゃる自治体の関係の方々、あるいは住民の方々自身も、それぞれの立場立場でできること、利用促進についてできること、それは前向きに捉えてそれを施策に反映させ、また住民の皆さん方の云々という形の中で、一步一步進めてっておりますので、当然申し上げながらお聞きするような状況というのは

よく我々受けとめ、意思共有をし、一つ心合わせをして取り組んでいかなければならないわけですが、決してその道から原点を我々は何も見失っていないということだけ、あえてちょっと会長というか、議長の立場として申し上げさせていただきたい、このように思います。

(委員)

皆さんが非常に汗をかいて存続させるべく取り組んでいただいていることは、私どもは十分承知しております。あえてこういう話をさせていただく、ですから何も今おっしゃられたように、私は責めてるつもりはございません。やはりみんなの願いが、やっぱりそれぞれにそういう組織体に対する思いであると思うんですけれども、やはり違う組織ですから、それはあってしかるべきなんです。しかしながら、それを乗り越えて存続に向けてやっていかなければならないなというふうに思っております、そういう意味で思いと危機感の共有が大事だということでございます。

それと1点、すみません、大事なことを言い忘れておりました。形成計画をつくる中で、必ずシミュレーションしてほしいなと思っております。この要望書の中に1点、粟生線において三木市域と小野市域については、公有民営方式の導入が不可欠であると、神戸電鉄は思っています。もしそれが不可能であれば、あるいは今の状態での運営を、運営の継続を望むのであれば、いわゆる他の事業者さんに当たっていただくことも検討してくださいということを簡単に書いております。この趣旨は、何も額面どおり、そこをそうと言ってるだけではなく、一方で厳しい状況の中で、もし万が一神戸電鉄が路線の一部を、運営から撤退するとすれば、この市域にならざるを得ないのが今の状況だという危機感をお伝えしたものでございます。そうすると、先ほども申し上げましたけれども、電車を御利用いただいているお客様が路頭に迷うこととなりますので、その交通手段の確保等については、ぜひ積極的に、積極的にというの何なんですが、やはり事前の備えとして御議論いただきたいなと思っておりますので、そこもよろしく願います。私、地域に入って活動もしておりますもので、決して、神戸電鉄がやめるということで、こういうことを言ってるわけじゃないことは、皆さん御承知のことかと思いますが、あえてやはり我々は責任を持つ立場ですので、こういったことも踏まえて対応していかなければならないなと思っておりますので、よろしく願いしたいと思っております。

(会長)

今、御指摘いただいたような形の中で、基本的には今でも共有できてるものと思っておりますけれども、更なる共有に努めてまいりたいというふうに思っております。



併せて、後段の方で御意見という形でいただいております。当然、何度も言って恐縮でございますが、支援効果検証委員会という形の中で、平成28年度が支援フレームの最終年度にも当たるという形の中で、今後、御社への貸付け等をどうしていくのかも含めて、今後のいろいろな主意、必要性も前提としてでございますけれども、そういった中の議論の一つとして、事務方の方でそのような検討の余地はあるとは思っております。その時につきましては、御社の方からもいろいろデータのなところの提供等とか、いただいたりして、一緒になって検討をさせていただきたいというように思いますが。

ただ、神戸電鉄がなくなるのありきだよという形ですね、そういうようにおっしゃっておられるわけではないんでしょうけれども、余りそちらのほうが一人歩きというのか、先に出てしまいますと、私は活性化協議会の会長であり、自治体のトップの首長でもありますので、何か逆にそちらの方、ちらつかされて、何か言葉は悪いですが、何かそういう場合もあるので覚悟しときなはれよというような感じで、受けとめてもしまいかねませんので、そういう意図じゃないとは思いますが、当然これ、事務方の中でまずは検討していく中で、首長の方へのレベルで上げていくのか、上げないのか、その辺はもう少しお時間を賜りたい、このように思っております。

今の報告事項、えらい長くなってしまって申しわけなかったですけど、非常に大事なところでございますので、よろしいでしょうか。

## **(2) 協議会の取組状況について**

### **(3) 平成28年度地域公共交通確保維持改善事業補助金（地域公共交通調査事業（計画策定事業））の国からの内示について**

（会長）

それでは、次、報告事項の2、協議会の取組状況と、次の改善事業補助、これにつきまして、一括で事務局の方から御説明をお願いします。

（事務局）

それでは、協議会の取組状況について御報告いたします。三木市交通政策課の〇〇と申します。

なお、協議会の取組状況のうち、特に利用促進に関係するものや、沿線の皆様と協働して取り組んでいる事業について、ここで御報告させていただきます。

また、時間も限られていることから、前回1月の協議会において御報告したものの等につきましては省きまして、ちょっと、お伝えしたいところだ

けをお伝えさせていただきます。

まず3ページを御確認ください。協議会では、粟生線の利用啓発や地域の皆様と一緒に実施するイベントなどを、「粟生線乗ろうDAY!」という位置付けで実施しております。今回、黄色で塗りつぶしているところが前回の協議会以降に実施されたイベントでございまして、後援事業等のところがございますが、こちら、小野地区地域づくり協議会さんの主催の小野陣屋まつりが3月5日、6日に実施されまして、こちら、粟生線の利用者の方に対しての特典を付けていただいております。

続きまして、5ページを御確認ください。9-5というところです。粟生線のサポーターズクラブについてです。粟生線サポーターズクラブは、今年の3月31日をもって第3期が終了しております。第3期の会員数は2,131名、また特別会員は386口という結果となっております。会員の内訳などにつきまして、最後の9ページに詳細を付けておりますので、併せて御確認をお願いいたします。

また、粟生線サポーターズクラブの集いについてですが、第9回の集いを2月28日、神戸電鉄の本社で行いました。粟生線のサポーターズクラブの運営委員につきましては、これまで自治体の職員や神戸電鉄の職員で構成されておりましたが、一般の方から運営委員を募ることといたしまして、運営委員に御応募いただきました4名の方に、第9回の集いで就任いただきました。今後、新しい運営委員の新しい視点を取り入れまして、サポーターズクラブの運営に携わっていただきたいと考えております。

また、9-7ページ、8ページにつきましては、企画乗車券や割引制度の販売状況について、また駅前パークアンドライド時間貸し駐車場について報告、詳細な報告等もありますので、また御確認をお願いいたします。

駆け足となりましたが、以上で協議会の取組状況についての報告を終わります。続いて資料の10、こちらを御確認いただきたいのですが、平成28年度の地域公共交通確保維持及び改善事業補助金の国からの内示について、簡単に御説明させていただきます。

こちらの事前調査につきましては、先ほどの協議事項でも説明がありましたが、地域の公共交通網形成計画の策定に係る調査事業について、その費用について国が支援をしていただける制度でございます。

今回、粟生線の地域公共交通網形成計画を策定するための調査といたしまして、約1,300万円の調査事業費を要望しておりましたところ、交付決定予定額として570万円の内示額の連絡がありました。本日の協議会をもちまして、神戸電鉄粟生線活性化協議会が法定協議会へ移行されますので、これを踏まえまして5月の中旬に正式な交付申請を行います。その後、国からの交付決定を受けまして、6月からの事業の実施をしてまいりたいと考えておりますので、引き続きよろしくをお願いいたします。

以上で報告とさせていただきます。

(会長)

ありがとうございました。今の2つの報告事項について、特に御質問や御意見はございませんでしょうか。

(委員)

会長の名誉のために確認したいんですが、議事の間での3号議案の最後の決議は私も賛成なんですけど、そのときに、ビッグデータの活用については、今後、代替が必要なときには有効に使いたいというようにおっしゃったんですが、それはあくまでも災害が起こって神戸電鉄が運行できなくなったと、そういうときのことをおっしゃったわけですよ。神戸電鉄の粟生線が廃線になったときにビッグデータを使ってという意味ではございませんよね。

(会長)

このビッグデータ、いろいろな使い方、2つは想定をしておりますけど・・・。

(委員)

代替輸送に活用をしたいとおっしゃったのは、その前に神戸市さん・・・。

(会長)

代替輸送、代替輸送というのは。

(委員)

最後におっしゃったんです。また録音があったら聞いていただきたいんですけど、3号議案の最後にコメントとして、もし何かあったときに代替、代替とおっしゃったか、代替輸送にビッグデータを活用してというふうにおっしゃったと思うんで、それはあくまでも災害とかそういうのを起こったときのことをおっしゃってるんですよ。神戸電鉄が粟生線の廃止になったときに、そのデータをもとに神姫バスさんが代替輸送という意味合いじゃ全くございませんよね。

(会長)

その議論は、詳しくはしておりませんが、私のイメージだけを申し上げさせていただきますと思いますが、先ほどから言っておりますような、い

ろいろな形成部会での前段としては、リンクしてくる意味で、既設の2つの委員会なり検討会というのがございます。そういうものの中で、神戸電鉄さんの方から先ほどからこのような要望も出ておるわけでございます。

そういった中で、神戸電鉄さんが仮にですけれども、三木～小野間で仮にですけれども、もしなくなったときに学生さんの方の代替輸送をどのように行っていくのか、そういうようなことを想定して・・・。

(委員)

おっしゃったわけですか。

(会長)

そういう意味でございます。

(委員)

ああ、そうなんですか。ちょっとうがった考え方で、そういうふうには、もし災害があったときのことをビッグデータをもとに、何々のところの間はこれぐらい乗ってるというのをもとに、バス輸送をしないといけないと取ったものですから、もし神戸電鉄さんのこの手紙をもとに市長がそうおっしゃったのであれば、今神戸電鉄さん、ほかの手段も考えといてくださいよって脅しに来たようなことをおっしゃいますし、神姫バスさんお見えになってる。ちょっと、何か全部出来レースですかいなと、こう思ってたんですが、まさか会長がそんなことを思っていらっしゃらないと思ひまして、あくまでも災害が起こったときの代替でビッグデータを活用したいとおっしゃったと私は思っておりますけども。

(会長)

何がメインなのか、私には分からないですけど。何をおっしゃるのか、ちょっと・・・。

(委員)

神戸電鉄が、粟生線が廃止になったときのことを考えてというのが前提であれば、ちょっとそれは問題の発言かなと思います。

(委員)

よろしいですか。ビッグデータの話は、今後もしろいろなことで使いましようという中での、中でおっしゃっただけなので、ちょっと代替輸送とかそういう単語自体が出てなかったと・・・。

(委員)

出てますよ、後で議事録確認、録音確認してください。

(委員)

録音で、とりあえず、ただこの議事としてはですね、これからもビッグデータ使える範囲でできるだけ使いましょうというだけの話で、それ以外の議論は、突っ込んだ議論もしてないんです。御記憶だと思いますので。

(委員)

横にいらっしゃったら一番よく聞こえてると思いますけども、私はそうあっていただきたいと思います。神戸電鉄の粟生線の廃止した時のことを考えて代替手段を考えたりビッグデータを使ってとおっしゃったのであれば、余りにも出来レースですやん。そんなあほなことできませんよ。

(委員)

形成計画の部会は、序段に日本人口1億何々の数字ですので、そういう前提を置きながら、シナリオをいくつか置いて考えますので、そこはニュートラルにやらせていただくので、よろしくお願ひしたいと思います。

(会長)

申し訳ないですけど、出来レースとかそういうふうな言葉は失礼ですよ。そういうような思いで言っていたわけじゃないんですから。

(委員)

私はあなたの、あなたの名誉のために、まさかそんな、神戸電鉄の粟生線が廃線になったことを前提になんかおっしゃってないと思いますので確認をしたかったんです。

(会長)

誰も前提なんか言うてないじゃないですか。

(委員)

いやいやだから、後でまたよく確認してくださいませ。

(会長)

もしそうであったら、言葉尻を捉えられて言うのはやめていただけますか。

(委員)

言葉尻じゃないんですよ。私は一番最初に断固反対しましたでしょう。失礼なことを言ったかも分かりませんが、そこですよ。我々としてはやっぱり神戸電鉄残していただきたいという一番……。

(会長)

当然そうです。そういうような中で、1つだけ〇〇委員にお願いしたいんですが、形成計画でつくっていきますのは、例えばですよ、最悪のことも想定した中でどうしていくのかという議論は、形成計画の中でせざるを得ない、避けて通れないわけですから。

(委員)

当然でしょうね。

(会長)

その中で行わせていただくということ言ってるわけで、それを出来レースだとか、あなたの名誉のためだとか、あなた、失礼な言い方ですよ。

(委員)

いやいや、だから最初から前提でおっしゃってるのであれば……。

(会長)

前提ではないです。

(委員)

そうでしょう。だからそれを聞かせていただきたかったんです。

(会長)

では、そういうことでございます。ほかにございませんでしょうか。

#### 4 その他

(会長)

それでは、報告時間が押しております。申し訳ございません。小野市さん、えらいお待たせしまして。最後のその他のところで、小野高ですね、小野高の方から粟生線存続に向けた署名が提出されておりますので。

(委員)

時間が大変押しておるところ申し訳ないんですけども、その他というこ

とで、1件報告をさせていただきたいと思います。

「小野市長への『栗生線存続に向けた署名』の提出について」ということで、資料は11でございます。今日、委員さんで小野高校の先生に御出席をいただいておりますけれども、この高等学校生徒によります栗生線存続に向けた署名の提出についてということで、この場を借りての報告をさせていただきます。

神戸新聞等にも記載をされましたので、委員の皆様方には既に御周知のこととは思いますが、本年の2月10日に小野高等学校の国際経済科3年生の生徒8名が小野市役所に来られました。そして、合計で4,912名分、約5,000人分の栗生線存続に向けた署名を小野市長へ提出をされました。このたびのその署名は、小野市長がお受けしていいのかということも思うところもございますけれども、高校が小野市に所在しておるといことと、高校生の意向も受け止めなければいけないということがございまして、お預かりを、お受けをした次第でございます。

提出に至る経緯といたしましては、昨年7月から栗生線の維持存続を研究、課題研究として生徒が学習される中で、その中で栗生線の維持存続には一過性のイベント開催だけではなくて、存続につながるより有効的な活動は何かということを考えられた中で、その結果、栗生線の存続のためには沿線市の支援だけではなく、広域行政である県とか国とかの支援も必要であり、国や県に動いていただくためには毎日、通学で利用している栗生線がなくなったら非常に最も困るのは高校生で、自らが署名活動を行い、地域住民の声を国や県に伝えて、支援を訴えていかなければならないという、そういった思いで活動をされたところでございます。

2枚目の方には、その要望書の方の趣旨に書かれておりますけれども、栗生線の廃止を阻止するためには、小野市から国や県に支援を求めること、栗生線存続への私たちの強い願いを伝えてほしいというその趣旨での要望書でございます。

署名を小野市長がお受けする中での意見として、「こういった署名活動は栗生線を利用している、また利用していない、そういったことには関わらず、多くの方に今声をかけていただいたことに大きな意義があります。署名活動には、そのプロセスが大切で、署名活動をすることで関心の低さ、栗生線問題を知らない人に知っていただくということの重要性などを感じたことが何よりも重要であり、今後の栗生線存続に向けて大きな意義があると考えます。この高校生の皆さんの活動に敬意を表して、市としても皆さんの意思を国、県に届けるべきであると考えています。」というような言葉を添えて、署名をお受けしたしだいでございます。

本日、御出席をいただいております国や県の関係者の皆様方におかれましては、小野高校生の活動の趣旨や小野高校生たちの切なる思いを御理解

いただいて、高校生の通勤、通学手段である粟生線の維持存続に向けて、沿線自治体とともに引き続き主体的な御支援をよろしくお願い申し上げまして、この報告とさせていただきますと思います。

(委員)

三木市の区長協議会は、この存続の署名を平成22か23年に我々やりまして、104万人ぐらいになったと思うんですけどね、の署名が集まりまして、私もその時は一緒に神戸電鉄の本社に行きまして、そして兵庫県知事とそれから三木市長と、この3部を準備しまして、お持ちしたことがあります。その辺はもう5年も6年も昔やから忘れられんように、三木の区長協議会がやったものですから、やっぱり重要に、今の高校生じゃないですけどね、そういうことをほかでもやっとなんかというように踏まえて、存続には御協力をお願いしたいなと思いますので、よろしくお願ひします。

(委員)

学生のそういう熱い思いというか強い要求を理解して、これの意味は、この協議会に参加させていただいて、県としてもできるだけの協力をさせていただくつもりであります。全く支援をしてないというわけではございませんので、その辺の国や県の支援がこういうことやっていますということについても市の方からですね、学生の方に周知していただくと助かります。

(会長)

ありがとうございます。

(委員)

神姫バスでございます。我々の路線もこういった高校生の方が御利用になられる路線があります。非常に本数が少ないところで、何とか維持、頑張っているところでございます。

ちょっと一つ、私がバス事業者として参画している意義を確認したいんですけども、この活性化協議会は網形成計画策定のための会議ということで認識しておるんですけども、網形成計画が住民の方の生活圏に合致した区域を対象として、個別局所的でなく、広域性を確保するということふうに示されております。そういったことから、沿線の公共交通会議、小野市だったら、実は加東市の方も神鉄さんに乗られている方もおられますね。そういった沿線だけじゃなくて広域的な自治体さんとの連携、そういったことも必要になってくると思います。三木市内でも荻谷の方から上津橋東の方で降りて上の丸から神鉄さんに乗り換えて行っていただいたりと



かしております。そういった、運行本数は少ないローカルバスから神鉄に乗り換えてと、そういった枝葉の交通体系全体も含めての網形成計画の策定をお願いしたいところであります。

(会長)

今の署名とはまた別の話・・・。

(委員)

そうです。ちょっと署名で高校生の移動という話がありましたので、ちょっとそれに重ね合わせて、意見を言わせていただきました。

(会長)

ありがとうございます。特に、ほかにないでしょうか。

それでは、これを事務局に返したらいいのかな。それでは、これをもちまして議事事項、報告事項等を終わらせていただきたいと思います。今日は年度の初めということもありまして、時間かかりましたけども、終始熱心な御議論をいただきまして本当にありがとうございました。後、事務局の方にマイクを返します。

(事務局)

それでは、皆様、長時間にわたりまして熱心な御議論どうもありがとうございました。以上をもちまして、全ての議事、報告事項が終了いたしました。

これをもちまして、第27回神戸電鉄粟生線活性化協議会を閉会いたします。今後とも、当協議会に対しての御協力、なにとぞよろしくお願いいたしまして、お帰りの際は十分お気を付けてお帰りいただくようお願いいたします。

それでは、どうもありがとうございました。

## 5 閉 会